

# 個 別 演 習 の 目 次

青 木 ……	1	天 谷 ……	3	海 野 ……	5	岡 田 ……	7
緒 方 ……	9	沖 ……	10	加 藤 ……	11	佐 藤 ……	13
塩 谷 ……	14	繁 本 ……	15	向 ……	17	張 ……	19
趙 ……	21	長 山 ……	22	西 成 ……	23	原 ……	25
朴(恩) ……	26	藤 原 ……	27	藤 村 ……	28	二ツ山 ……	30
古 川 ……	32	星 野 ……	34	松 岡 ……	36	水 野 ……	38
宮 島 ……	39	宮 脇 ……	40	持 田 ……	41	姚 ……	42
安 井 ……	43	山 崎 ……	44	ラ ナ デ ……	46	渡 邊 ……	47

ナンバリングコード B4BSN-cbaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 324158) 個別演習 (青木) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月5	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 青木 宏之	関連授業科目	経営学関連の科目	
	履修推奨科目	人的資源管理論A, B	
学習時間 講義90分×15回＋自学自習 (準備学習60時間、事後学習60時間)			
<b>授業の概要</b> この授業は、人的資源管理論・経営管理論を研究する。主な内容は以下の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・人的資源管理・経営管理論に関する文献の輪読。</li> <li>・グループワーク。</li> <li>・地元企業へのフィールドワーク。</li> </ul>			
<b>授業の目的</b> この授業の目的は下記のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・人的資源管理論・経営管理論についての文献を輪読し、討論することを通じて専門知識を深める。</li> <li>・自分の関心領域にかかわる資料収集や文献研究を行い、論文作成のための知識と技術を習得する。</li> <li>・フィールドワークを通じて、現代企業の問題を社会科学的に理解する力を習得する。</li> </ul>			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
この授業の到達目的は下記のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・人的資源管理論・経営管理論に関する専門知識を習得する。(DPコード「知識・理解」に対応)</li> <li>・とくにその中でも自分の関心領域を定め、それに関するより深い知識を習得する。(DPコード「知識・理解」に対応)</li> <li>・現代企業の実態を分析し、その結果をプレゼンテーションできるようになる。(DPコード「問題解決・課題探求能力」に対応)</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> <b>【個別演習】</b> 課題遂行状況、報告状況、出席状況、討議への参加状況などを勘案して総合的に評価する。 <b>【卒業論文】</b> 文字数などの詳細は別途指示する。 文字数を満たしているか、所定の書式を満たしているか、論理性や独創性を持っているかといった点を中心に、総合的に評価する。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> <b>【選考基準】</b> 演習での成績や取り組み具合を中心的な選考基準とする。 演習を履修していない場合は、面接を行い、成績を合わせて選考する。 <b>【授業計画】</b> 第1回 オリエンテーション：第1学期の授業にかんする説明・課題設定 第2～7回 人的資源管理に関する文献の輪読 第8回 各人のテーマ設定 第9～13回 各人のテーマに即した論文の論評 第14～15回 フィールドワーク 第16回 オリエンテーション：第2学期の授業にかんする説明・課題設定 第17～21回 卒業論文テーマに関するプレゼンテーション 第22～28回 文献輪読または論文論評 第29～30回 グループワーク：ディベートまたはプレゼンテーション <b>【授業および学習の方法】</b> この授業は対面で行います。しかし状況によっては、遠隔あるいはハイフレックスで行います。 <b>【自学学習のためのアドバイス】</b> 第2～3回 授業中に指定する文献を用いて、事前に、企業の賃金制度改革についての事例を分析する。(10時間) 第4～7回 授業中に指定する文献を用いて、雇用制度改革に関して、授業で学んだ理論的枠組みを用いて分析を行う。(10時間) 第8回 事前に、卒論で取り上げるテーマについてまとめる。(10時間) 第9～13回 授業中に指定する文献を用いて、各人の卒論テーマに即した領域の基礎知識を得る。(20時間) 第14～15回 事前に、フィールドワークのための質問票作成を行う。(10時間)			

第17～19回 卒論のテーマに関する必要文献リストの作成を行う。(10時間)  
第20～21回 事前に、卒論の中間報告のための準備を行う。(10時間)  
第22～25回 先行研究の分析を行う。(10時間)  
第26～28回 先行研究を整理したうえで、卒論のオリジナリティーに関して構想する。(10時間)  
第29～30回 事前に、フィールドワークのための質問票作成を行う。(20時間)

教科書・参考書等  
その都度各自に指示する。

オフィスアワー 木曜日 3時限目 青木研究室 (幸町南7号館2階)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ  
・無断遅刻・無断欠席は厳禁。  
・卒業論文にまじめに取り組むこと。

ナンバリングコード B4ECN-bcaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 314123) 個別演習 (天谷) Special Seminar ミクロ経済学・ゲーム理論とその応用	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 天谷 研一	関連授業科目	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、応用ミクロ経済学	
	履修推奨科目	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、応用ミクロ経済学	
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習 60時間 + 事後学習 60時間)			
<b>授業の概要</b> ミクロ経済学およびゲーム理論の手法を習得し、それを用いて現実の経済・社会問題を分析できる力をつけることを目指します。 人間の行動原理と、人々の間の相互作用や駆け引きについて考察するのが「ミクロ経済学・ゲーム理論」という学問です。従って、ミクロ・ゲームの考え方を身につけることで、市場取引や経済政策といった標準的な経済学の問題はもとより、経営戦略・組織・交渉・制度設計・外交戦略など、様々な社会の事象への理解を深めることができます。 ミクロ・ゲームの思考法を習得することで、複雑な社会の問題の背後にある本質を自分の頭で紐解いて理解する快感を得るとともに、自分が社会で生きて行く上での大事な指針を手にすることができるでしょう。 演習では、参加者の希望も踏まえて具体的なテーマを選択し、テキスト講読、問題演習、教員や学生が提起する問題のディスカッション、グループや個人による研究を行います。これにより、知識の習得に加えて、研究のスキルやセンスを磨いて行きます。			
<b>授業の目的</b> 経済主体が相互依存関係下でいかなる意思決定を行うか、また市場においていかなる資源配分が実現されるか、ミクロ経済学とゲーム理論の観点から理解するとともに、自ら現実の経済問題を発見し、ミクロ経済学とゲーム理論の手法を用いて分析できるようになる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ミクロ経済学とゲーム理論の基礎概念を理解し、それらをどのような経済問題の分析に用いることができるのか説明できる (DPの「b: 知識・理解」に対応)。</li> <li>・ 現実の経済問題を自らの力で発見し、ミクロ経済学とゲーム理論の手法を用いた簡単なモデルを作って分析し、説明することができる (DPの「c: 問題解決・課題探求能力」に対応)。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別演習 出席、ゼミでの報告・発言、課題レポート、学年末に提出の卒業論文 (最終稿だけでなく、どのようなプロセスで作成したかも含む) を総合的に評価する。</li> <li>・ 卒業論文 経済理論の手法を用いて、自分の設定したテーマについて分析を行い、論文にする。単位認定に当たっては、独創的な研究がなされているかを重視する。既存の文献等を調べてまとめただけのものは単位認定しない。</li> </ul>			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考基準  同一教員の演習から継続する者については、ゼミ活動に貢献し、卒業論文作成に積極的に取り組む意欲が認められれば受け入れる。 その他の者については、以下の観点から選考を行う。            1. ミクロ経済学の基礎を習得しているか (もしくはこれからしっかり学習する意欲があるか)            2. 経済学・現実の経済問題に強い興味を持っているか            3. 論理的・数学的に物事をじっくり考える意欲及び能力があるか            4. 受身の姿勢ではなく、主体性を持ってゼミでの勉学に取り組む意欲があるか            5. 報告準備を責任を持ってする、積極的に発言するなど、「楽しく緊張感のあるゼミ」づくりに貢献できるか            6. 研究したいテーマが教員の指導能力に適合するか             ・ 授業計画並びに授業及び学習の方法             年間の演習のうち、おおよそ5割を講義・テキストの講読および問題演習、2割を研究方法のトレーニングおよび学生による研究発表とする。残り3割は履修者と相談の上、上級の文献講読、プロジェクト研究等にあてる。            発表担当でない回でも、テキストを精読して予習をし、自分の考え、疑問点などを整理したうえで出席することが求められる。また、上記のゼミ論文、卒業論文以外にも、学習内容を確認するためのレポートを適宜課すことがある。            ゼミは、グループでの勉強の場である。自分自身が学習意欲を持つのはもちろんのこと、他のメンバーの勉学にも協力・貢献する姿勢が求められる。             ・ この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。         </li> </ul>			

教科書・参考書等

参加者と相談の上決定する。以下は候補のいくつかである。

1. 丸山雅祥『経営の経済学』（第3版）有斐閣、2017年、3000円＋税
2. 伊藤秀史・小林創・宮原泰之『組織の経済学』有斐閣、2019年、3200円＋税
3. 坂井豊貴『マーケットデザイン入門』ミネルヴァ書房、2010年、3000円＋税
4. ギルボア『意思決定理論入門』NTT出版、2012年、2800円＋税

オフィスアワー 月曜4時限

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

就職活動等でやむを得ず欠席する場合は、授業の進行や他の参加者の学習に支障をきたさぬよう、十分配慮することが求められる。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 314126) 個別演習 (海野) Special Seminar 論文作成の技法	科目区分 専門教育科目	時間割 前期火2	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 海野 晋悟	関連授業科目 金融政策I、金融論I・II、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・II、統計学、計量経済学		
	履修推奨科目 統計学、計量経済学		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
<b>授業の概要</b> 卒業論文の書き方を学びながら、卒業論文を作成する。そして卒業論文を執筆する過程で調べた内容を授業中にローテーションで発表する。その他の学生はそれに対して意見を言い、発表者はそれを踏まえて卒業論文をさらに発展させていく。論文作成のための基本的なことからデータ等の処理の仕方まで学ぶ予定である。卒業論文のテーマは経済に関係したことから自由である。			
<b>授業の目的</b> ・他人に文書の形でわかりやすく物事を伝えるという能力は今後の人生においても非常に重要となります。この演習では、研究の進め方、文章の書き方、効果的な発表の仕方を習得することによって、その能力を習得することを目指します (DPの「言語運用能力/課題解決のための汎用的スキル」)。 ・IT技術の進歩によって、今、ありとあらゆることに関するデータが多数存在します。それらのデータも適当な加工・処理をし適切な方法で分析しなければ、宝の持ち腐れとなります。この講義では、データ等の適切な処理の仕方、見方なども学びます (DPの「知識・理解/広範な人文・社会・自然に関する知識」)。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・解決すべき問題を自分で設定することができるようになる。</li> <li>・問題に対して実行可能な解決方法を見つけることができるようになる。</li> <li>・データを前にして、適当な操作を行い、分析することができるようになる。</li> <li>・学術論文の形式にのっとって論理的な文章が書けるようになる。</li> <li>・自分の考えを他者に文章ならびに口頭でわかりやすく述べることができるようになる。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> ・令和2年度個別演習単位認定方法 出席状況・受講態度・卒業論文への取り組み姿勢などを総合的に評価する。  ・令和2年度卒業論文の作成要領と単位認定方針 テーマは経済に関係することなら自由である。論文は20,000字以上を原則とする。  出席状況、授業への取り組みを総合的に評価する。授業を無断欠席した場合は、単位を認めない可能性がある。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。】</b>  ・選考基準 前年度の演習履修者は、演習内でのパフォーマンス等を見て決定します。それ以外の方は成績表・面接によって履修が可能かどうか決定します。  その他の者については、以下の観点から選考を行う。 1. 経済学の基礎を習得しているか (もしくはこれからしっかり学習する意思があるか) 2. 経済学・現実の経済問題に強い興味を持っているか 3. 論理的・数学的に物事をじっくり考える意欲及び能力があるか 4. 受身の姿勢ではなく、主体性を持ってゼミでの勉学に取り組む意欲があるか 5. 報告準備を責任を持ってする、積極的に発言するなど、「楽しく緊張感のあるゼミ」づくりに貢献できるか 6. 研究したいテーマが教員の指導能力に適合するか  ・授業計画並びに授業及び学習の方法 第1回: ガイダンスとイントロダクション 第2回～第15回: 学生による報告 第16回: ガイダンス 第17～30回: 学生による報告  個別演習時間外にも卒業予定者には卒業論文の指導を行います。  他大学とのインゼミで卒業論文の中間発表会を予定しています。  個別演習内での卒業論文の締め切りは2021年12月28日 (予定) とします。			

1月に3年生・他ゼミ参加の卒業論文発表会を行う予定です。

**【自学自習に関するアドバイス】**

時間を見つけてコツコツとやっていくことが卒業論文完成までの近道です。毎日少しの時間（5, 10分）でもいいので、自分の卒業論文のことについて考える時間を作りましょう。

**教科書・参考書等**

教科書は特にありません。

**参考書として**

戸田山 和久（2012）「新版 論文の教室 レポートから卒論まで」NHK出版、1296円

を挙げておきます。

オフィスアワー 毎週火曜・水曜のお昼休み。

それ以外で希望の場合は、メールで連絡をいれること。

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

- ・無断欠席は厳禁です。また、多すぎる欠席も厳禁です。
- ・講義中の携帯電話やスマホの使用は禁止です。

ナンバリングコード B4ECN-cbdE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 314121) 個別演習 (岡田) Special Seminar 経済政策の実証研究	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 岡田 徹太郎	関連授業科目	経済政策	
	履修推奨科目		
学習時間 演習90分 × 30回 + 自学自習 (事前学修 90時間 + 事後学修 30時間)			
<b>授業の概要</b> アクティブ・ラーニング型演習である。経済政策に関わる文献の事前学修に基づき、グループ・ワークによる対話と発表を行ないながら、卒業論文を作成する。 前期は、3年次演習の期末レポート (卒論草稿6000字) を基に、ゼミ生による発表と質疑応答を行うほか、政策研究に関する専門的な文献を輪読する。後期は、夏休みの課題 (20000字まで発展させた卒論草稿) を基に、発表と質疑応答及び添削指導を行うほか、専門性を高めた政策研究に関する文献を輪読し対話を行う。 なお、正規の演習時間枠90分を超えた活動 (フィールドワーク、高大接続授業、夏休みの研修旅行等) も多いので心積りしておくこと。			
<b>授業の目的</b> 経済政策に関わるさまざまなトピックを深く理解することを目的とする。財政政策、金融政策、雇用政策、社会政策、地域政策、振興政策、環境政策、対外経済政策などの諸政策について、学生諸君が、その歴史と現状の把握、及び海外の諸制度との比較ををしたうえで、学修の成果として20000字の卒業論文 (学位論文) にまとめられるようにする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 経済政策に関わる諸制度の現状について説明できる。 2. 経済政策に関わる諸制度の歴史的な発展とその変遷について説明できる。 3. 経済政策に関わる諸制度について、日本と海外の事例を比較し説明できる。 4. 経済政策に関わる諸制度の問題点を明らかにし、解決策を提案できる。 5. 経済政策に関わる卒業論文 (学位論文) を執筆できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> ・個別演習単位認定方法  報告担当時の報告内容 (40点), 出席状況 (30点), 卒業論文 (準備論文を含む) (30点) の100点満点とし、学則にしたがった成績をつける。評価にはルーブリック評価表を用いる。なお、無断欠席をしたものは不可とする。  ・卒業論文の作成要領と単位認定方針  20000 字以上の論文でなければならない。作成要領の詳細は個別演習の中で指示する。単位認定にあたっては、自らの新しい見解・論点 (独創性) が盛り込まれていることを要件とする。必ず、卒業論文指導を受ける事。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> ・選考基準  演習 (岡田) の修了者: 演習の成績による。 他の演習の修了者: 自由科目 (自学科と他学科) を15科目 (30単位) 以上、既に修得している事を前提とし、面接のうえ可否を決定する。  ・授業計画並びに授業及び学習の方法  アクティブ・ラーニング (能動的学修) 型授業によるグループ・ワークを基本とする。  第1回～第11回 『財政学の扉をひらく』の輪読と対話。引き続き、『現代社会資本論』の輪読と対話の予定。 第12回～第15回 ゼミ生による卒論草稿 (6000字) の中間発表と対話。 第16回～第21回 後期テキストの輪読と対話。 第22回～第29回 夏休みの課題 (20000字の卒論草稿) の発表と討論及び添削指導。 第30回 卒業論文発表会。  テキストの輪読にあたっては、各回に報告担当者を決める。			



事前準備として、報告担当者は、テキストの内容に即した「レジュメ」を作成したうえで、参加者の質問に答えられるよう下調べを行ない、演習に臨まなければならない。他の参加者は、テキストの該当範囲を熟読し、分からなかった単語・単純な疑問と、話し合うに値する問題点・論点のそれぞれを「発見カード」に整理し、ゼミ前日までに提出しなければならない。

当日は、報告者論点と、発見カードに基づいて、3～5人のグループで対話する。司会と書記を交互に担当すること。対話の終了後、書記が、ゼミ全体に向けて発表を行なう。司会が、他グループの発表に質問やコメントを寄せる。指導教員による助言と、報告担当者の総括コメントでゼミを締めくくる。

この科目は全回対面授業を予定している。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況により、全てまたは一部の授業を遠隔へ変更する可能性がある。

#### 教科書・参考書等

最初のテキスト：

高端正幸・佐藤滋『財政学の扉をひらく』有斐閣ストゥディア，2020年，1800円 + tax. 大学生協等で購入を済ませること。

通年で必要となる経済辞典として：

金森久雄・荒憲治郎・森口親司編『有斐閣 経済辞典』第5版を必携とする。大学生協等で購入して、第2回以降の演習に毎回持参すること。

2つ目のテキストとして、森・諸富・川勝『現代社会資本論』2020年，2900円+ tax を予定している。後期には、既刊の良書を選択する。2つ目以降のテキストは、ゼミ全体で共同購入するので、生協や一般書店等で購入してはならない。

オフィスアワー 火曜日IV時限

#### 履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自ら積極的にゼミに関わり合い、真摯に学ぶ姿勢が求められる。

個別演習規定時間外にも、個別に卒論指導を行なう。日程調整を行なうので、呼び出しには柔軟に応じる事。

ナンバリングコード B4SCL-bceE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 334176) 個別演習(緒方) Special Seminar 卒業論文執筆ゼミナール	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木5	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4SCL	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 緒方 宏海	関連授業科目	文化人類学、社会調査法	
	履修推奨科目	文化人類学、社会調査法	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 基本的には各自が授業時間外に調査研究を進めることになる。 時間外学習の成果をゼミや教員指導の折に報告し、コメントをもらって、卒業論文の完成を目指す。			
授業の概要 三年次の「文化人類学演習」で学習し、ゼミ論として仕上げたものを基礎としながら、学生が決めた卒論テーマについて、厚い民族誌となるようにさらに調査・研究を重ねていく。その過程で、教員との面談、演習での卒論発表、議論をすることを通じて、四年間の学習の集大成としてよりより卒業論文の完成をめざす。			
授業の目的 この個別演習は、実証的な研究課題を学生各自で設定し、文化人類学的な視点から研究した卒業論文を執筆・完成させることが目的である。文献などの二次情報だけでなく、自らの観察や聞き取りにもとづいた第一次情報の収集力と分析力を訓練し、文化人類学と社会学さらにその関連分野の問題発見力と思考力を身につけることをめざす。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 先行研究を批判的に読み解く力を身につける。 2. ある社会や地域・集団を対象にして人類学のフィールドワークを企画・立案し、実際にデータ収集・分析を行うことができる。 3. 人類学と社会学さらにその関連分野の問題発見力と思考力を身につける。 4. 卒業研究を完成し、自己の研究テーマについて一定の方法論と知識を獲得することができる。			
成績評価の方法と基準 1. 個別指導の折の内容 (20%) 2. 合同ゼミや中間発表会での口頭報告の内容 (20%) 3. 提出されて卒業論文の内容 (60%) ※評価基準: 形式、2万字以上、資料の質と量、論理、オリジナリティの各点について評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス ※この講義は基本的に対面で実施します。  【授業計画】 ①卒論にむけて計画を見直し、関連する先行研究などの検討を行なう。 ②前期終了時まで卒論のアウトラインを作成し、全体の構成とその進捗状況を確認し、今後必要な具体的作業を確定する。 ③卒論の内容をゼミで報告する ④夏休みに補足調査を実施する。 ⑤担当教員のコメントを受けて内容を修正をする。 ⑥他大学の学生と共同の卒論発表会にて卒論を発表する。 ⑦12月初めまでに最終原稿を教員提出する。教員から返却された原稿を修正する。 ⑧1月に完成原稿を提出する。  【選考基準】 ・文化人類学、社会調査法を履修していること。 ・3年次「演習(緒方)」において、ゼミ論を提出し合格した者。 ・上記以外の学生については、それと同等の学力があること。			
教科書・参考書等 教員が必要に応じて指示する。 ただし、各自が卒論執筆に必要と考える図書は必ず自分で購入するか、図書館から借りるなど自主的に行うこと。			
オフィスアワー 水曜日14時から17時南キャンパス2号館3階緒方宏海研究室。 履修上の注意・担当教員からのメッセージ 自らから現場へ向かい、自分自身で収集してきたデータを出発点として、自分が生きる世界のあり方やものの考え方を根源的に問い直すことこそが、人類学の目指すところである。この演習では、フィールドに飛びこみ、「他者」や「異文化」に自己の身をさらすこと、果敢に調査・研究に取り組むことができる学生を歓迎する。			

ナンバリングコード B4ECN-bcaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 314111) 個別演習 (沖) Special Seminar グローバル資本主義の思想・歴史・現在	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月3	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 沖 公祐	関連授業科目	政治経済学 I・II	
	履修推奨科目	政治経済学 I・II	
学習時間 演習90分×30回＋自学自習 (準備学習 80時間)			
<b>授業の概要</b> 3年次の演習を踏まえて、グローバル資本主義に関する卒業論文を書くための準備作業を行います。前半では、論文の書き方に関する文献の輪読、各自が選んだ卒論テーマについての報告を行います。後半は、卒業論文の執筆を実際に進めていきます。			
<b>授業の目的</b> 学術論文を読み解くことを通じて、経済社会の本質や構造に対する高度な理解力を養います。また、卒業論文を執筆するための基本的スキルを身につけます。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 学術論文を正確に理解することができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 2. 他人の意見を批判的に吟味することができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. グローバル資本主義の特徴を説明することができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 4. 現代社会の抱える諸問題に対し学術的にアプローチすることができる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 5. 論理的な文章を学術論文の形式に則って書くことができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
<b>成績評価の方法と基準</b> <b>個別演習:</b> 出席状況、報告内容、議論への参加の積極性などにより総合的に判断します。  <b>卒業論文:</b> 認定の基準は、展開が論理的であるか、先行研究への言及があるか、学術論文としての体裁が整っているか、などです。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>選考基準:</b> 3年次の演習の取り組み方によって判断します。  <b>授業計画:</b> 前半では、論文の書き方に関する文献の輪読、各自が選んだ卒論テーマについての報告を行います。後半は、卒論作成を進めていきます。  <b>授業の方法:</b> この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。  <b>自学自習:</b> 報告担当者はレジュメを作成するなど、報告の準備をします (5時間程度)。それ以外の参加者は文献を精読し、疑問点や論点を用意します (2時間程度)。			
<b>教科書・参考書等</b> 川崎剛『社会科学系のための「優秀論文」作成術』勁草書房。			
<b>オフィスアワー</b> 初回時に指定します。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 卒業論文は大学で学んだことの集大成です。執筆は大変ですが、がんばりましょう。			

ナンバリングコード B4ECN-cbdE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 314122) 個別演習 (加藤) Special Seminar 高齢社会と社会保障	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 加藤 美穂子	関連授業科目	演習、福祉経済論、社会政策、経済政策	
	履修推奨科目	演習、福祉経済論、社会政策、経済政策、財政学、地方財政論	
学習時間 講義90分×30回＋自学自習 (準備学習 60時間 + 事後学習 60時間)			
<b>授業の概要</b> この個別演習では、演習で学習した内容を基盤としながら、日本の福祉国家システムの現状や課題について、より掘り下げて研究・分析を行います。 授業はゼミ生の報告とディスカッションを中心としながら進めます。			
<b>授業の目的</b> この授業では、日本の福祉国家システムの特徴や課題について、実証的に分析・検討していきます。3年次の演習で学習したことを基盤としながら、より専門的な文献や資料を読解し、論文としてまとめる力を養います。加えて、報告と議論を通じて、他者の発言・意見を理解する力、報告内容や自分の意見を他者に的確に伝える力、コミュニケーション能力の向上も目指します。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1) 日本の福祉国家システムの特徴を理解し、説明することができる。 (2) 日本の経済社会の構造変化が、現在の日本の社会保障システムに与える再編圧力を説明できる。 (3) 専門的な文献や資料を読解し、論文としてまとめることができる。 (4) 専門的な文献や資料を読解し、その内容を的確に他者に伝えることができる。 (5) 他者の報告や発言・意見を理解し、自分の意見を論理的に述べるができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> (1) 受講態度、報告・発言内容によって評価する。 (2) 卒業論文は、2万字以上とする。設定したテーマをもとに、各自、参考文献や資料、統計データを収集し、分析・考察を行って論文にまとめること。 (3) 無断欠席に関しては、単位を認定しない可能性がある。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1回 ガイダンス、卒業論文の概要の報告(テーマ、研究目的、目次案、参考文献リストなど) 第2・3回 卒業論文の概要の報告 第4-12回 卒業論文に関する報告 ・主要な参考文献の内容 ・関連する制度、歴史的変遷 ・基礎的な統計データの整理・検討 ・分析の手法、進捗状況 など 第13-15回 夏休みの研究計画の報告 ゼミ補講：中間報告会 第16・17回 進捗状況の報告 第18-28回 卒業論文に関する報告 第29・30回 卒論報告会に向けた準備 ゼミ補講：卒論報告会  ・報告の際には、配布資料を作成し、参加者に配布すること。 ・他のゼミ生の報告をきちんと聞き、互いの知識と知見を深めるために、質疑を積極的に行うこと。 ・授業形態は基本遠隔方式で行う予定。状況によっては、一部の授業を対面方式に変更する可能性あり。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 第1-3回 春休み中に勉強した内容を報告できるよう準備をする。(6時間) 第4-12回 研究内容を整理し、ゼミ内で知見を共有できるよう報告準備をする。(18時間) 第13-15回 夏休みの研究計画を作成し、報告準備をする。(6時間) 夏休み期間 文献サーベイ・調査研究(60時間) 第16・17回 卒業論文の中間報告として、資料の作成と質疑応答のための準備を行う。(4時間) 第18-28回 研究内容を整理し、ゼミ内で知見を共有できるよう報告準備をする。(22時間) 第29・30回 卒論報告会に向けて、資料の作成と質疑応答のための準備を行う。(4時間)			

**【個別演習選考基準】**

- ・演習の参加態度・成績、卒業論文への意欲によって判断する。
  - ・他の演習の修了者については、本演習の選択理由、卒業論文のテーマ、意欲、成績と、面接によって判断する。
- なお、卒業論文のテーマが研究題目と関わりのない場合には、履修を断ることがある。

**教科書・参考書等**

テキスト・参考書については、各自の卒業論文の内容に即しながら指導する。

オフィスアワー 木曜日12:00-13:00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

卒業論文の作成は、堅実・着実に進めるように。

ナンバリングコード B4ECN-cabE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 314117) 個別演習 (佐藤) Special Seminar 社会政策・労働問題の研究	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 cabE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 佐藤 忍	関連授業科目		
	履修推奨科目	社会政策A・B	
学習時間 講義90分×30回+自学自習 (準備学習60時間+事後学習60時間)			
<b>授業の概要</b> 社会政策を研究するということは、要するに、私たち自身の生き方を考えるということだ。働きかた、家族のありかた、老いかた、およそ人が生きていくうえで否応なく直面する生活上の諸問題に関わるさまざまな事柄について現状を把握し、問題点を見つけ、あるべき対処について考察するということである。社会問題への感受性を高め、そして自己の生き方を省察し、見つめ直すきっかけとなるであろう。			
<b>授業の目的</b> 自分の興味関心に添ったテーマについて、資料を収集・整理・分析し、説得力のあるプレゼンテーションを経ながら、独創性豊かな卒業論文を作成する。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 卒論テーマの設定をつうじて課題設定能力を身につけることができる。 2. 卒論の説得的な論述をつうじて問題解決能力を身につけることができる。 3. ゼミでの発表・討論をつうじてコミュニケーション能力を身につけることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 【個別演習】 ゼミにおける発表・討論など日頃の研究姿勢に基づき総合的に評価する。  【卒業論文】 各自のテーマに関して、既存の研究水準を適切に摂取・サーベイし、独自の視点から整理統合したものでなければならない。ワープロ使用のこと。A4版上質紙(40字/行×38行/頁)20枚以上を標準とする。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。  【個別演習選考基準】 研究題目に対する興味関心を持続させ、それを自らのテーマの設定によって一層深化させ、そして論文にまとめる意志のある人。したがって、研究題目に対する興味関心を喪失した人、あるいは自己のテーマを設定できない人は、履修をお断りすることがある。  【授業の進め方】 各自のテーマについて報告・討論を繰り返しながら、卒業論文を完成させる。  【自学自習のためのアドバイス】 授業を予習する。(1×30時間) 授業を復習する。(1×30時間) 授業及び合宿での発表のレジュメを作成する。(4×5時間) 卒業論文を作成する。(40時間)			
<b>教科書・参考書等</b> 使用しない。			
<b>オフィスアワー</b> 火曜3時間目  <b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> どのテーマにもいろんな見方・考え方があるといこと、それらの間の相違点と共通点を適切に理解したうえで、自分なりの考え方をどのように展開していけばよいのかということが大事な点です。			

ナンバリングコード B4BSN-cbaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 324164) 個別演習(塩谷) Special Seminar 経営学の実証研究	科目区分 専門教育科目	時間割 前期金1	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 塩谷 剛	関連授業科目 経営戦略論、経営組織論、イノベーション論、計量経済学Ⅰ/Ⅱ、調査データ分析Ⅰ/Ⅱ		
	履修推奨科目 計量経済学Ⅰ/Ⅱ、調査データ分析Ⅰ/Ⅱ		
学習時間 講義90分×30回＋自学自習(事前学習90時間＋事後学習60時間)			
<b>授業の概要</b> 経営学の領域における実証研究の方法論を指導する。企業組織に関する研究論文の執筆を通じて科学的・論理的な思考能力を養うことを目標とする。			
<b>授業の目的</b> 経営学の領域における調査研究の実行・論文執筆に必要なスキルを習得し、卒業論文を完成させる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①自ら仮説を立てることができる。 ②仮説を統計的手法を用いて検証できる。 ③調査研究の結果を論文にまとめることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 受講態度(準備状況および討議への貢献度など)、卒業論文により総合的に評価する。  下記の要件を満たしている場合に卒業論文としての提出を許可し、その内容に応じて評価する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業経営に関する研究テーマが選択されていること</li> <li>・研究論文作成の様式に則っていること</li> <li>・先行研究を整理し、学術的・実践的意義を有するもの</li> <li>・執筆者自身が作成したデータセットを用いた統計的実証分析を行っていること</li> </ul> データのタイプは、アーカイバブルデータ、アンケートデータどちらでもかまわない			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> この科目は全回対面授業を行う。 なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性がある。			
<b>第1学期</b> 第1回：イントロダクション 第2回～第15回：学術論文の講読、卒業論文進捗報告			
<b>第2学期</b> 第16回～第29回：卒業論文進捗報告 第30回：演習内卒業論文報告会			
<b>教科書・参考書等</b> 受講生の研究テーマに即して随時紹介する。			
<b>オフィスアワー</b> 特に定めない。事前にe-mail等でアポイントメントを取ること。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> みなさん自身が「面白い」と思える研究をしてください。指示を待つのではなく能動的な取り組みを期待しています。 それでは1年間頑張りましょう。			

ナンバリングコード B4BSN-cabE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 324151) 個別演習 (繁本) Special Seminar 財務会計と関連領域の多角的研究	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cabE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 繁本 知宏	関連授業科目 監査論、簿記入門	財務会計論A・B、会計学総論、株式会社会計、	
	履修推奨科目 査論	財務会計論A、財務会計論B、株式会社会計、監査論	
学習時間 講義90分×30回+自学自習 (予習60時間+復習60時間)			
授業の概要 3年次の演習を踏まえて、会計、ファイナンスあるいは金融に関連するテーマの卒業論文の執筆指導を行う。			
授業の目的 卒業論文の執筆に必要な専門知識を身に付け (DPの「知識・理解」に対応)、卒業論文のテーマとしてふさわしい研究課題を自らの力で見出し (DPの「問題解決・課題探究能力」に対応)、その課題に対して的確な分析と考察を経て合理的な結論を導く (DPの「問題解決・課題探究能力」に対応)。その上で、分かりやすく論理的な卒業論文を作成する (DPの「言語運用能力」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 卒業論文の執筆に必要な専門知識を説明できる (DPの「知識・理解」に対応)。 2. 卒業論文としてふさわしい研究課題を自ら見出せる (DPの「問題解決・課題探究能力」に対応)。 3. 研究課題に対し的確な分析と考察を行うことができる (DPの「問題解決・課題探究能力」に対応)。 4. 3を踏まえて合理的な結論を導き出せる (DPの「問題解決・課題探究能力」に対応)。 5. 分かりやすく論理的な論文を作成できる (DPの「言語運用能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 【個別演習】 卒業研究の進捗と質、ならびに授業における報告の質やディスカッションへの参加状況によって成績を評価する。詳細は授業で説明する。 【卒業論文】 詳細は授業で説明するが、会計やファイナンス、金融に関するテーマであって、卒業論文としてふさわしい質を備え、字数は20,000字以上であることが必要。質という点では、既存研究の焼き直しや文献を単に整理するだけでない独創的な課題設定、先行研究の十分な読み込み、適切なデータの利用、論理的な文章構成、十分な根拠に基づく説得力のある結論、論文にふさわしい文体などが求められる。これらの達成度をもとに単位認定および成績評価を判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1. 選考基準 演習の取組状況をもとに選考する。  2. 授業計画並びに授業及び学習の方法 (1) 前期 ・春休みの課題として研究計画書の初稿を作成する。 ・卒業論文のテーマを設定し、研究計画を練り上げる。 ・研究の進捗状況を定期的に報告し、ディスカッションを行う。 (優れた論文を作成するためには、他人からの指摘が非常に有益) ・論文執筆に必要な知識を補強するため、研究テーマに関連した学術論文を読み、ディスカッションを行う。 (2) 夏休み中 ・各自で論文の柱となる分析を行う。 (ここで分析の大半に目途を付けておかないと締切に間に合わない公算大) (3) 後期 ・論文作成の進捗状況を定期的に報告し、ディスカッションを行う。 ・授業時間だけでは行き届いた指導が難しいと思われるため、個別演習の授業時間外においても適宜指導を行う。  なお、卒論作成の途中報告を数回、3年演習時に行う予定である。			



(自学自習のアドバイス)

- ・授業各回について、予習90分、復習90分を行うようにする。
- ・卒論作成は長期的な計画に基づくことが必要。4年生は就活などに時間を取られがちだが、少しずつでも時間をみつけて計画的に執筆を進めるよう心掛けてほしい。

(授業形態)

- ・全回対面形式で実施する。しかしながら状況によっては全てまたは一部の授業回を遠隔へ変更する可能性がある。

教科書・参考書等

【テキスト】明石芳彦『社会科学系の論文の書き方』ミネルヴァ書房、2018年。(本体2,200円＋税)

【参考書】各自の研究テーマに即した参考文献を随時紹介する。

オフィスアワー 初回授業時に指定する。ただし、指定時間以外でも、事前連絡があれば学習相談に随時応じる。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

卒論作成は能動的な行動が非常に重要。「言われないとやれない」「ギリギリにならないと動けない」という受動的な姿勢を取ってしまうと卒論完成は覚束ない。提出期限間近になって慌てることがないように計画的に卒論作成に取り組んでほしい。

ナンバリングコード B4BSN-cbdE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 324160) 個別演習 (向) Special Seminar 国際経営ゼミナール International Management Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 向 滄	関連授業科目 グローバル経営論、経営管理論、経営戦略論、経営組織論、人的資源管理論、マーケティング論、調査データ分析		
	履修推奨科目 グローバル経営論、経営管理論、経営戦略論、経営組織論、人的資源管理論、マーケティング論、調査データ分析		
学習時間 講義90分×30回+自学自習 (準備学習90時間+事後学習30時間)			
授業の概要 卒業論文作成のための研究指導を行う。			
授業の目的 卒業論文に必要となる専門分野に関する応用的な知識や文章作成能力を身に付ける。また国際経営の理論と研究方法論を活かして、多国籍企業の経営活動の実証研究を行い、卒業論文を作成する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>国際ビジネス戦略とマネジメントについて問題意識を持ち、かつ適切な方法で調査・研究し、論理的な文章を書くことができる (学士課程のDP「問題解決・課題探求能力/21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。</li> <li>卒業論文に関わるレジュメや論理的な文章を書くことができる (学士課程のDP「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。</li> <li>卒業論文に関わるプレゼンテーションと討論を通じて、自らの主張を他人に明確に伝えることができる (学士課程のDP「倫理観・社会的責任/市民としての責任感と倫理観」に対応)。</li> </ul>			
成績評価の方法と基準			
<ul style="list-style-type: none"> <li>個別演習 卒業研究の進捗状況と成果、ゼミ活動へのコミットメントと貢献により総合的に評価する。</li> <li>卒業論文 卒業論文は、以下の条件を満たさなければならない。卒業論文の完成度と面白さに応じて評価を行う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>①学生らしい問題意識を出発点とした国際経営に関する研究</li> <li>②先行研究を踏まえた上で書かれていること</li> <li>③書式にのっとって書かれていること (書式については別途指示する)</li> <li>④論理性と独創性を持っていること</li> <li>⑤文字数は20,000字以上</li> </ol> </li> </ul>			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> <li>選考基準 <ol style="list-style-type: none"> <li>①3年生の演習から継続する場合は、特別な事情がない限り、選考を行わない。</li> <li>②4年生から新規に個別演習に参加したい場合は、志望理由書、研究計画書および面接により選考する。</li> </ol> </li> <li>授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 第1回           イントロダクション 第2～29回       研究発表および個別指導 第30回          卒業論文発表会 なお、ローテーションで3年生演習の補助をしてもらうこともある。</li> <li>【学習方法に関するアドバイス】 <ol style="list-style-type: none"> <li>①演習生は教員のサポートの下で、主体的に卒業論文に取り組むこと。</li> <li>②演習生は自らの進捗状況を把握しながら、計画的に研究を進めること。</li> <li>③毎回の中間発表の前日までに、発表者は原稿をゼミ全員に送付して、目を通してもらうこと。</li> <li>④演習生は他人の発表内容に対して、建設的な意見を積極的に述べること。</li> </ol> </li> </ul> <p>*この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を一部または全て遠隔へ変更する可能性があります。</p> <p>*進捗状況などに応じて、授業計画を変更する場合があります。</p>			

教科書・参考書等

特定の教科書を使わないが、卒業論文作成上有益な参考書を、随時各自に紹介する。

オフィスアワー 事前にe-mail等でアポイントメントを取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・無断欠席は厳禁。
- ・体調管理に気を付けて、時間に余裕を持って、卒業論文に取り組むこと。

ナンバリングコード B4BSN-cbdE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 324162) 個別演習 (張) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 張 暁紅	関連授業科目	経営史、現代企業論	
	履修推奨科目	経営史、現代企業論	
学習時間 授業時間90分×30回+自学自習 (準備学習82時間+事後学習23時間)			
<b>授業の概要</b> 本演習では、企業のあり方及びその歴史的成因について研究を行い、それを卒業論文として完成させる。 主な内容は以下のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度までの研究成果を踏まえて、各自の卒論テーマを改めて設定する。</li> <li>・卒論に向けて、中間報告を定期的に行い、ディスカッションをし、論文の修正を随時行う。</li> <li>・卒論を完成させる。</li> </ul>			
<b>授業の目的</b> この授業の目的は下記のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の経営上の問題を歴史的な視点を用いて分析することができる。</li> <li>・必要とする資料へのアクセス方法を習得できる。</li> <li>・自ら研究課題を設定し、資料を駆使して論理的に説明することができる。</li> </ul>			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の抱える問題を歴史的に思考することができる。</li> <li>・グループワークの力を借りて、最終的に自力で研究課題を解決することを学べる。</li> <li>・自分の考え方を文書にして、論理的に説明することができるようになる。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> <b>【個別演習の成績評価】</b> 中間報告への取り組み姿勢と課題遂行状況に基づき総合的に判断する。  <b>【卒業論文の成績評価】</b> 卒業論文は以下の諸点を達成できることを条件とする。達成度を鑑み卒論の成績とする。 ①先行研究を踏まえたうえ、研究目的をはっきりと明示する。 ②資料の使い方は適切である。 ③論理展開は明瞭で説得力がある。 ④一定の独創性を有する。 ⑤2万字以上である (図表のスペースも含む)。 ⑥所定の書式を遵守する。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> <b>【選考基準】</b> 3年次「演習」に基づき、課題を提出して、合格したもの。  <b>【授業計画並びに授業及び学習の方法】</b> ※対面により実施することを基本とする。 第1回 オリエンテーション：授業に関する説明と課題設定 第2～9回 中間報告・ディスカッション 第10～14回 個別指導+グループワーク 第15回 前期のまとめ  第16～21回 中間報告・ディスカッション 第22～30回 卒業論文報告・学内ゼミとのジョイントゼミ報告  <b>【準備学習および事後学習のためのアドバイス】</b> 第2～9回 中間報告の準備、ならびにディスカッションを通して得た反省点を中心とした事後学習を行うこと。 (準備30時間、事後10時間、各個人1回) 第10～14回 論文の進捗状況を確認し、完成に向けて修正していく。(準備8時間×4回) 第16～21回 中間報告の準備、ならびにディスカッションを通して得た反省点を中心とした事後学習を行うこと。 (準備10時間、事後5時間、各個人1回) 第22～30回 個別指導、卒業論文報告をする予定。(計準備10時間、事後8時間、各個人1回)			

教科書・参考書等

教科書指定なし。

それぞれのテーマに即して随時案内する。

オフィスアワー 火曜日の三時限目。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

卒業論文は私たちが社会に向けての最初の名刺となります。その作成過程を大切にいきましょう。

ナンバリングコード B4BSN-cbaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 324161) 個別演習 (趙) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月5	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 趙 命来	関連授業科目	経営学関連科目	
	履修推奨科目	マーケティング論、経営戦略論、流通システム論	
学習時間 演習90分×15回＋自学自習 (準備学習60時間＋事後学習60時間)			
<b>授業の概要</b> 大学で学ぶことは、特に社会科学の場合は、「社会で起きている出来事を、研究の世界で言われていること（理論）と照らし合わせながら理解する力を付けること」です。理論は、「個々の現象を法則的に、統一的に説明できるように道筋を立てて組み立てられた知識の体系」です。「個々の現象」とは世の中で起きている出来事ですが、現実（「個々の現象」）は常に変化しているわけです。理論は現実を説明するためのものですから、現実がかなり変化していると、理論はいずれ当てはまらなくなります。そうすると、新たな現実には当てはまるように理論を作りかえなければなりません。本個別演習では、このような作業をマーケティングや流通の分野に焦点を当てて行います。			
<b>授業の目的</b> 本個別演習では、マーケティングや流通における理論を学び、そこで起きている現実を理論的に眺めて見る、あるいは理論を現実的な側面から眺めてみることを通じて、自ら問題を発見し、解決策の仮説（仮の答え）を立て、検証する作業を行います。本演習はこのようなトレーニングを通じて、マーケティングや流通の現象を深く理解することはもちろん、「問題発見能力」、「問題解決能力」、いわゆる「現実を見る目（社会で起きていることを理論と対応させながら考える力）」を養うことを、目的とします。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. マーケティングがわれわれの生活にどのようなかわりをもつか理解できる。 2. 現場でマーケティングをうまく実践するために理論がどのように役に立つか理解できる。 3. ある問題について論理的に考える、伝える、討論する、文章で表現できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> ・ 個別演習 卒論進行状況、出席状況、報告内容、議論への参加度、ゼミ活動などの状況に基づいて総合的に判断します。  ・ 卒業論文 20,000字以上。 マーケティングや流通はもちろん、経営学にかかわるテーマを選ぶ。 できるだけ1次データ収集して分析する。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> ・ 選考基準 演習での取り組み状況（演習への積極性、卒論進行状況、出席状況、ゼミ活動への参加度など）により、総合的に判断します。  ・ 授業計画並びに授業及び学習の方法 マーケティングや流通はもちろん、経営学にかかわる現象（問題）を卒論のテーマとして自由に選び、毎回の個別演習では数人の報告担当者がレジュメを作成・報告し、議論を行う。 最終回に卒論報告会を開催する。  注) 基本対面で実施します。			
<b>教科書・参考書等</b> 必要に応じて資料を配布します。 オフィスアワー 随時、研究室にて受け付けます。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> ゼミ生同士がお互いの卒論テーマに関心を持ち、個別演習やそれ以外の時間においても普段から議論や相談をすること。 指導教員と十分な相談や議論を行うこと。 演習に迷惑をかけるような行動、遅刻、無断欠席がある場合には単位を与えません。			

ナンバリングコード B4ECN-bcxE-20-Lx4 授業科目名 (時間割コード: 314119) 個別演習(長山) Special Seminar 規範理論[Normative Theory]	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月3	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 4	
担当教員名 長山 貴之	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×30回+自学自習(準備学習60時間+事後学習60時間)			
<b>授業の概要</b> この授業では、規範理論に関する研究を指導する。 タバコ会社が公的医療保険に負担を掛けていると非難された。タバコ会社は反論した。確かに、タバコは肺癌を引き起こし、公的医療保険の給付を増大させている。しかし、タバコは肺癌を引き起こし、寿命を縮めるため、公的年金の給付を減少させている。そのため、社会保険全体では負担を掛けていない。あなたはタバコ会社の主張を支持しますか。			
<b>授業の目的</b> 功利主義、義務論、徳倫理学の考え方を理解すると共に、それらの理論が抱える課題を探究できるようになる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1) 功利主義、義務論、徳倫理学の特徴を説明できる。(DPの「知識・理解」に対応) (2) 功利主義、義務論、徳倫理学が抱える課題を分析できる。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 報告と討議の内容によって評価する。報告と討議では論理性が重視される。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【選考基準】</b> 演習の成績によって選考する。評価がB以上なら無条件で受け入れる。			
<b>【授業および学習の方法】</b> 教科書を輪読する。報告と討議が授業の中心である。			
<b>【授業計画】</b> 受講者の希望に応じて教科書を選び、輪読する。 また、必要に応じて卒業論文の指導も行う。 本年度は原則として対面方式で、授業を実施する。 但し、第1回の授業は遠隔方式で実施する。 また、状況によっては授業の実施方式を変更する場合がある。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 第1～30回 新聞や雑誌の記事を集め、授業内容の理解に役立つ。(1時間×14回) 教科書の該当箇所を読み、授業内容の理解に役立つ。(2時間×14回) 担当箇所に関する報告資料をまとめる。(6時間×3回)			
<b>【卒業論文作成要領と卒業論文単位認定方針】</b> 原則として2万字以上(図表を含む)。論文の内容によって評価する。論文では論理性だけでなく独自性も重視される。			
<b>教科書・参考書等</b> <b>【教科書】未定</b>			
<b>オフィスアワー</b> 月曜日 4時限目。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 欠席する場合は事前に連絡すること。			

ナンバリングコード B4GE0-cdeE-20-Ep4 授業科目名 (時間割コード: 334192) 個別演習(西成) Special Seminar まちづくり・デザイン研究	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4GE0	DP・提供部局 cdeE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ep	単位数 4	
担当教員名 西成 典久	関連授業科目 まちづくり論、地域活性化プロジェクト、地域をデザインする思考と実践		
	履修推奨科目 観光・地域振興コース関連科目		
学習時間 研究発表・作業等90分 × 30回 + 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
<b>授業の概要</b> 衰退する地域には何が必要なのでしょう、高齢過疎化は問題なのでしょう。これまで着実に作りあげられた人口拡大社会の仕組みを根本から見直し、環境・エネルギーや合意形成(政治)の問題に対応する新たな社会づくりが「まちづくり」に求められています。本ゼミでは、「デザイン」という観点からこうした問題の解決を考えていきます。ここでいう「デザイン」とは、絵を描くような“デザイン”ではなく、「具現化するプロセス」そのものを「デザイン」と呼んでいます。社会の仕組みが大きく変化する今だからこそ、新たな発想で地域に価値を生み出していく必要があります。人も思考も創造的に、ゼミ活動も楽しく創造的にいきましょう。			
<b>授業の目的</b> 学生自身が自分の問題意識・興味関心を明確化し、主体的な学びを得ることが目的です。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①研究の思考方法・やり方を習得する 重要なことは、自分自身の問題意識を明確化し、認識することです。			
②プロジェクトの運営能力を身につける 実社会で求められていることは何か、地域の問題を解決するために、複数人でプロジェクトを行う運営能力を身につけます。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 「研究」と「プロジェクト」への取り組み姿勢と成果。ゼミでの発言と主体性。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> ≪選考基準≫ 選考基準は「やる気(本気で取り組めるか)」と「適性(興味や自主性)」です。  ≪授業計画並びに授業及び学習の方法≫ 本ゼミでは、①個人研究と②プロジェクトが二本柱です。  ①個人研究(主に4年生) 「まちづくり×○○」 この○○に各自の興味・関心を入れてください。  「研究」はすでに世の中で明らかになっていることを「学ぶ」のではなく、これまで明らかとされていなかった知見や事柄を「追及」していく極めて創造的な思考活動です。 学生自身が現段階では気付いていない、各自の深い問題意識・興味関心を自分自身で見出すことが最大の目的ともいえます。  昨年までの卒業論文タイトルをいくつか紹介します。  <b>卒業論文</b> ・官民連携による共創の場づくりに関する研究 ・空き家の発生しやすいエリアを対象とした現状分析とその対策に関する研究 ・地図史料から把握する高松城下町内における寺社の変遷に関する研究 ・シビックプライド醸成要因に関する基礎的研究—高松で活動する6名の対話を通じて ・長期的なエリアリノベーションにおける段階的発展要因に関する研究 ・瀬戸内国際芸術祭をきっかけとした地方移住者の価値観と働き方の実態 ・理想地図づくりによるコミュニティの主体意識形成に関する実践的研究 ・石清尾八幡宮の伝統的祭礼に関する研究 ・銭湯にみる高松の都市生活とその変遷に関する研究 ・公共空間における芸術・音楽を通じた文化政策に関する研究 ・高松市内におけるシンボルとしての「鎮守の森」に関する研究 ・森林を活用した医療・福祉行為に関する事例研究 など			



②プロジェクト（主に3年生）

ゼミでは学生自身が主体的に取り組めるプロジェクトを運営しています。

毎年、プロジェクト内容やテーマは変わっており、ゼミに集まったメンバーや学生自身の興味関心によってプロジェクト内容は決めていきます。

なお、メンバーによっては新規プロジェクト等も考えていきたいと思います。

また、進め方としては個人で進めるプロジェクトや調査もあり、必ずしもグループやメンバー全員で進めるものではありません。

なお、ゼミは基本的に対面で実施しますが、一部の授業回では遠隔とする可能性があります。

今後の状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

教科書・参考書等

適宜紹介します。

オフィスアワー 研究室にて随時対応します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

演習で学んだ「研究のやり方」をもとに、正しくも面白い「研究」に取り組むことを期待しています。

「研究」と「プロジェクト」において、3年生を指導してください。

ナンバリングコード B4GE0-cebE-20-Ef4 授業科目名 (時間割コード: 334180) 個別演習 (原) Special Seminar 観光と地域活性化のアクションリサーチ	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4GE0	DP・提供部局 cebE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ef	単位数 4	
担当教員名 原 直行	関連授業科目	地域活性化論、エコツーリズム論	
	履修推奨科目	地域活性化論、エコツーリズム論	
学習時間 授業90分×25回程度＋フィールドワーク＋自学自習 (準備学習80時間 + 事後学習40時間)			
<b>授業の概要</b> 教室での学修とフィールドでの実践により、地域活性化につながる観光振興・地域振興策を企画・実践する。(このような手法をアクションリサーチという) 県庁・市役所・町役場、企業、農協・漁協、NPO、住民等とともに活動する。 社会が大学教育に強く求めているチャレンジ精神、課題探求・解決力が身につくが、そのためには行動力、思考力、コミュニケーション力が要求される。			
<b>授業の目的</b> 地域活性化につながる観光振興・地域振興策を企画・実践することにより、授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、地域に愛着を持ち自信をもって社会に出ることができる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. チャレンジ精神が身につく。 2. 課題探求・解決力が身につく。 3. コミュニケーション力が身につく。 4. 能動的な学習をもたらす主体的な学びができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> ・個別演習 授業およびフィールドワークへの参加態度 (積極性など)・参加内容 (取組内容)、各種報告会での発表内容、卒論等により総合的に判断する。 ・卒業論文の作成要領と単位認定方針 演習での課題を卒論にする。20,000字程度が目安だが、量より質を重視する。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> ・選考基準 演習でのレポートおよび取組姿勢によって選考する。  ・授業計画並びに授業及び学習の方法 1年間かけて、教室での学修とフィールドでの実践との融合をはかる。  第1回～5回 研究史の整理と課題設定 第6回～10回 第1次フィールド調査報告 第11回～15回 第2次フィールド調査報告 第16回～20回 卒論中間報告 第21回～25回 第3次フィールド調査報告 第26回～30回 卒論最終報告 ※この科目は基本的に対面授業を行う。なお、状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性がある。  <自学自習のためのアドバイス> 第1回～5回 研究史の整理と課題設定について、発表のための資料の読み込み、発表準備をする。(20時間) 第6回～10回 第1次フィールド調査報告について、発表のための資料の読み込み、発表準備をする。(20時間) 第11回～15回 第2次フィールド調査報告について、発表のための資料の読み込み、発表準備をする。(20時間) 第16回～20回 卒論中間報告について、発表のための資料の読み込み、発表準備をする。(20時間) 第21回～25回 第3次フィールド調査報告について、発表のための資料の読み込み、発表準備をする。(20時間) 第26回～30回 卒論最終報告について、発表のための資料の読み込み、発表準備をする。(20時間)			
<b>教科書・参考書等</b> 授業時に指定する。			
オフィスアワー 木曜3限 <b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 卒論作成に向けて「読む」「書く」技術にこだわる。受講生は読むこと、書くことに慣れる必要がある。			

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 324157) 個別演習 (朴恩) Special Seminar 卒業論文を書く	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月5	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 E	単位数 4	
担当教員名 朴 恩芝	関連授業科目	会計学総論、株式会社社会計、監査論	
	履修推奨科目	会計学総論、株式会社社会計	
学習時間 講義90分×15回＋自主学習 (準備学習30時間＋事後学習30時間)			
<b>授業の概要</b> ここでは、それまでの会計分野の内容に関してより高度な理論と実践を身に着けます。これまでの講義と3年次の演習が知識の習得に重点を置いていたとすれば、個別演習では興味のある一つの分野を深く掘り下げ、問題を発見し、論理的に解決して行きます。			
<b>授業の目的</b> 3年次の演習はさまざまな授業からの関心領域を会計分野に絞っていくプロセスで、知識の習得が中心にあったといえます。 個別演習は、授業の展開は3年次の演習と同様、プレゼンテーションと討論の形式ですが、自分の卒業論文作成のプロセスを他のゼミ生と共有し完成して行く点で大きく違います。自分の考えが形となり、人々に伝わり、討論の対象になることで、今まで習得した知識が活かされる実感が得られ、自分の論理がまとまります。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 一つのテーマに関して、論理的な思考ができる。 2. 論理的な思考をまとめ、文章をとおして他人を説得することができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 卒業論文作成の進行状況、態度などを重視します。さらに、進行状況を報告するに当たり、浮かび上がるさまざまな疑問点に対して、討論という形式を借りてどう解決していくかもひとつのポイントとなります。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別演習選考基準 卒業論文のための準備や取り組み状況を見て、判断します。特に、演習での総合評価が主な判断基準となります。</li> <li>・卒業論文の作成要領と単位認定方針 卒業論文の作成は以下のプロセスで指導し、取り組みの態度と成果をみて、総合的に判断します。</li> </ul> <p>4月～5月 3年生の演習を通して、自分が興味を持つテーマを複数取り上げて、それに関する簡単な報告を行います。</p> <p>6月～7月 テーマをひとつに絞って、そのために必要な参考文献や論文などを探し、そこからそのテーマを選んだ理由や論文の意義、目次と各章への大まかな内容を決めていきます。7月の最後の個別演習では目次が確定します。ここでは、選んだテーマに関する多くの資料と情報を探ることが重要となります。</p> <p>8月～9月 (夏休み中) 論文テーマに関連する資料を徹底的に探し、後期の論文作成に備えます。</p> <p>10月～11月 毎回1章ずつ論文を作成・報告してもらい、個別に細かい指導を行います。次の回には修正分と新しい章を用意します。(2～3人のチームへの個別指導体制)</p> <p>12月 論文を書き上げます。</p> <p>1月 細かい修正作業後、完成論文を提出します。</p>			
<b>注意：対面授業の実施を基本としますが、状況によって柔軟に対応します。</b>			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書の指定はありません。			
<b>オフィスアワー</b> 木曜 2限 研究室3号館3階			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 論文作成のためには、根気よく関連分野に関心を持ち続ける必要があります。			

ナンバリングコード B4ECN-cbdE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 314120) 個別演習 (藤原) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期火4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 藤原 敦志	関連授業科目	演習 (藤原)	
	履修推奨科目	演習 (藤原)	
学習時間 講義90分×30回+自学自習 (準備学習60時間+事後学習60時間)			
<b>授業の概要</b> 卒業論文の書き方を学びながら、卒業論文を作成する。そして卒業論文を執筆する過程で調べた内容を授業中にローテーションで発表する。その他の学生はそれに対して意見を言い、発表者はそれを踏まえて卒業論文をさらに発展させていく。卒業論文のテーマは原則として金融に関係したこものを選ぶこと。			
<b>授業の目的</b> ・卒業論文を執筆する。 ・他人の意見に対して自分の意見を述べる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
・論文作成能力を身に付けることができる。 ・他人の意見に対して自分の意見を述べるができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> ・令和3年度個別演習単位認定方法 出席状況・受講態度・卒業論文への取り組み姿勢などを総合的に評価する。  ・令和3年度卒業論文の作成要領と単位認定方針 テーマは経済に関係することなら自由である。論文は20000字以上を原則とする。  出席状況、授業への取り組みを総合的に評価する。授業を無断欠席した場合は、単位を認めない可能性がある。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> ・令和3年度個別演習選考基準 演習 (藤原) 修得者は、演習で学んだ内容を糧にして、卒業論文を書く意欲がある学生を受け入れる。それ以外の学生は、面接や成績によって総合的に判断する。  ・授業計画並びに授業及び学習の方法  授業形態は基本的に対面とする。  <b>【授業計画】</b> 第1回～第15回 卒業論文のテーマの探索 第16回～第30回 卒業論文の途中経過の報告  <b>【授業及び学習の方法】</b> 前期は、各自の卒業論文のテーマを探す。そしてテーマが決まった人から資料を調べて発表する。後期は卒業論文の途中経過をローテーションで発表する。  ゼミ生が望めば、1月末にゼミ3年生を相手に卒業論文発表会を行う。  <b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 第1回～第15回 卒業論文のための資料集め・読み込み (60時間) 第16回～第30回 卒業論文の執筆 (60時間)			
教科書・参考書等 卒業論文の書き方に関する本を適宜紹介する。			
オフィスアワー 最初の授業で紹介する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 原則として金融に内容に関連したテーマを卒業論文のテーマとして選ぶこと。			

ナンバリングコード B4BSN-cbdE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 324136) 個別演習 (藤村) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月5	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 藤村 和宏	関連授業科目	観光および経営関連科目	
	履修推奨科目	マーケティング論B	
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習60時間+事後学習60時間)			
<b>授業の概要</b> 高校までの授業は、答えのある問題が与えられ、その答えの導き出し方の習得を中心に行われるが、大学の講義は、答えのない、解決すべき問題を自ら発見し、それを学術的な問いとして設定し、その解を自ら導き出す能力の習得するために行われるべきであると考えている。そのため本演習では、観光やマーケティング、消費者行動に関する理論的・実証的研究を通じて、自ら問題を発見し、それを学術的な問いとして設定し、その解を創り出すために、理論的な考察によって仮説を構築し、それを量的あるいは質的調査によって検証する能力を習得する。 具体的には、テキストを輪読し、観光やマーケティングの研究に必要な基礎知識を習得する。さらに、観光やマーケティングの学習においては、自ら経験し五感で感じることで、そこから問題を発見することが重要であることから、企業や地域見学のための国内旅行、あるいは異文化体験のための海外旅行を行う予定である。 また、研究テーマを自ら設定して理論的・実証的に考察を行うとともに、3年生の演習にも参加し、下級生を指導しながら自らも学ぶ必要がある。 卒業論文については、12月あるいは1月に行う合宿で発表し、討議を行う。			
<b>授業の目的</b> 観光やマーケティングに関する研究を通じて、自ら問題を発見し、それを学術的な問いとして設定し、その解を創り出すために、理論的な考察によって仮説を構築し、その仮説を量的あるいは質的調査によって検証する能力を習得すること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 観光やマーケティングにかかわる問題に関心を持つことができる。 2. 新聞や専門誌の観光やマーケティングに関する記事を理解・解説できる。 3. 仮説を構築し、検証するための技法を習得できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> <b>&lt;個別演習&gt;</b> 個別演習単位の認定は、出席状況 (10%)、レジュメによる報告内容 (20%)、卒業論文研究活動および論文 (50%)、討議内容 (20%) により総合的に判断する。  <b>&lt;卒業論文&gt;</b> 卒業論文の作成においては、学生らしい視点で観光やマーケティング、流通、消費者行動などにかかわる問題を理論的および実証的に考察しなければならない。なお、卒業論文は以下の条件の中の2つ以上を満たしていなければならない。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国語文献を用いる。</li> <li>2. 質的あるいは量的調査を実施する。</li> <li>3. 多変量解析ソフト (SPSS) を用いて分析する。</li> </ol> 書式および分量は、以下の要件を満たしていなければならない。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分量は20,000字以上で、A4判上質紙にワードプロセッサで書くこと。</li> <li>2. 表紙、目次、参考文献、頁番号 (表紙および目次以外の頁に通し番号で) は必ずつけること。</li> </ol> 単位認定は研究内容の独創性 (30%) と考察内容 (70%) に基づいて行う。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> <b>&lt;選考基準&gt;</b> 個別演習選考基準の以下の4点である。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 演習での報告および討議内容</li> <li>(2) 卒業論文のテーマと作成意欲</li> <li>(3) 演習への参加状況および態度</li> <li>(4) 演習でのグループ研究活動の状況と発表内容</li> </ol>			

<授業計画並びに授業および学習の方法>

第1回            ガイダンス

第2回～15回    輪読によってマーケティングに関する理論の習得と討議

第16回～30回  輪読によってマーケティングに関する理論の習得と討議+ 卒論の研究発表

また、マーケティング研究においては、現場を自ら体験し考える必要があるので、国内あるいは海外の企業や商業施設、観光地などの視察・調査を行なう。

この科目は、対面方式で講義を行います。ただし、状況によっては、遠隔方式に変更する可能性もあります。

**【自学自習に関するアドバイス】**

第1回～30回    各回の文献を読むとともに、重要な概念や理論、関連ケースを調べる。(各回4時間)

また、卒論研究を理論的・実証的に行う。(100時間)

教科書・参考書等

  随時指示する。

オフィスアワー        月曜日：10時～12時    18時～20時

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

  3年生の演習にも参加し、彼らを指導することで、自らも学ぶ。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 334196) 個別演習 (二ツ山) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野	DP・提供部局 cebE	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Ef	単位数 4	
担当教員名 二ツ山 達朗	関連授業科目	国際観光論 観光産業論	
	履修推奨科目	国際観光論 観光産業論	
学習時間 講義90分×30回＋自学自習(準備学習30時間＋事後学習30時間)＋フィールドワーク			
<b>授業の概要</b> 本授業では、観光人類学・観光社会学で議論されてきた先行研究をふまえ、質的(場合によっては量的)調査法を用いることで、観光現象に関わる諸問題を明らかにします。 地域住民の声を聞くことで課題を探究するフィールドワークにより地域の理解を深め、問題解決に導くことに寄与する卒業論文の執筆を行います。 本授業では観光人類学・観光社会学のテキストを輪読するとともに、フィールドワークによる臨地調査を行い、卒業論文を執筆します。			
<b>授業の目的</b> 観光社会学・観光人類学に関する諸研究を整理し、それらに関する事例を知るとともに、課題となっている論点を理解できる。(DPの「知識・理解」に対応) インタビューや参与観察などの質的調査方法を理解し、調査から得られたデータを発表する力を身につけることができる。(DPの「地域理解」に対応) 発表や論文執筆を通じ、プレゼンテーション力や文章作成能力を身につける。(DPの「問題解決・課題探究能力」に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 観光学・人類学等の先行研究を理解し、関連する概念を整理できる。 2. 文献の調べ方を習得できる。 3. 研究課題を文章化できる。 4. インタビューや参与観察などの質的調査方法を習得できる。 5. 研究のプレゼン方法を習得できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 個別演習: 授業での発表、討論への参加・貢献度を総合的に評価する。  卒業論文: 社会的あるいは学問的貢献がなされていること、先行研究をふまえ批判的な議論が展開されていること、文献やフィールド調査をもとに証明されているもしくは説得的であること、分析方法が明記されていること、独自の視点をもとにした議論・結論が示されていること、引用方法が的確であること、が認定の基準となる。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<b>【授業計画並びに授業及び学習の方法】</b> テキストの輪読により先行研究を理解するとともに、各自のテーマについて調査・報告・討論を繰り返すことで、卒業論文の骨子を完成させる。 第1回 オリエンテーション 第2回～第7回 調査報告 + テキスト輪読1 第8回～第15回 研究課題報告 + テキスト2輪読 第16回～第22回 夏休み課題報告 + テキスト3輪読 第23回～第30回 卒論最終報告  <b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 第1回 これまで履修した観光関連科目の内容を復習してくること(4時間) 第2回～第7回 テキストを読み、内容の要約と自身の考えをまとめてくること。発表者は発表準備・レジュメの作成を行うこと(24時間) 第8回～第15回 発表者:発表準備・レジュメの作成を行うこと。発表者以外:発表内容についてコメントを考えること。全員:テキストを読み自身の考えをまとめてくること。(48時間) 第16回～第30回 報告者:報告準備・レジュメの作成を行うこと。報告者以外:報告内容についてコメントを考えること。全員:テキストを読み自身の考えをまとめてくること。(48時間) 第8回～第30回(フィールドワークについての自学自習):各自の課題についてフィールドワークを行い、教員に進捗状況を報告すること(48時間)			
学会や研究会への参加、臨地におけるフィールドワーク、合宿などを実施することがあるので参加できること。 3年生演習との合同発表をすることがあるので、その際は木曜日の4限・5限に参加できるようにすること。			

**【授業及び学習の方法】**

この科目は対面により実施することを基本とします。  
なお状況によっては一部遠隔へ変更する可能性があります。

**教科書・参考書等**

指定しません。適宜授業内でプリント等を配布します。

**オフィスアワー**

授業終了後に応じます。

研究室への訪問時間については授業時間内かSNSで伝えます。

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

後世に残す価値のある研究論文レベルを求めます。



ナンバリングコード B4BSN-cadE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード：324155) 個別演習 (古川) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cadE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 古川 尚幸	関連授業科目		
	履修推奨科目 環境システム論、商品システム論、資源エネルギー論、商品実験		
学習時間 講義90分×30回＋自学自習(準備学習30時間＋事後学習30時間)			
<b>授業の概要</b> 「商品」・「環境」・「地域活性化」について総合的な研究を行い、卒業論文を作成します。 商品：商品学の視点から見た商品の適商性に関する研究 環境：商品学の視点から見た循環型社会に関する研究 地域活性化：商品学の視点から見た地域資源の再評価に関する研究  「商品」・「環境」・「地域活性化」のどの分野においても、フィールド調査を取り入れた研究を行います。その他、工場見学なども予定しています。			
<b>授業の目的</b> 「商品」・「環境」・「地域活性化」について、商品学の視点から、基礎的な考え方を身につけ、卒業論文を作成することを目的とします。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①商品学の視点から見た商品の適商性について、基本的な考え方を身につける。 ②商品学の視点から見た循環型社会について、基本的な考え方を身につける。 ③商品学の視点から見た地域資源について、基本的な考え方を身につける。 ④商品学の視点から、各自で決定したテーマに基づき卒業論文を作成し、自分の考えを構築することができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> <b>【個別演習】</b> 出席状況と取り組み姿勢、卒業論文により評価します。  <b>【卒業論文】</b> 設定した各自のテーマをもとに、資料やデータを収集し、2万字以上にまとめます。その他の詳細については別途指示します。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> <b>【選考基準】</b> 研究テーマに関心があり、ゼミ活動全般に積極的に取り組む意欲と協調性のある学生を希望します。フィールド調査を取り入れた研究を行いますので、積極性を重視します。選考については、演習での出席状況と学習態度により選考します。  <b>【授業計画】</b> 第01～03回：第1回フィールド調査（於：担当地域 時期：4月） 第04回：第1回フィールド調査の報告および第2回調査へ向けた調査項目の事前検討 第05～07回：第1回フィールド調査（於：担当地域 時期：5月） 第08回：第1回フィールド調査の報告および第2回調査へ向けた調査項目の事前検討 第09～11回：第2回フィールド調査（於：担当地域 時期：6月） 第12回：第2回フィールド調査の報告および第3回調査へ向けた調査項目の事前検討 第13～15回：第3回フィールド調査（於：担当地域 時期：7月） 第16回：第3回フィールド調査の報告 第17回：卒論指導 第18回：卒論指導 第19回：卒論指導 第20回：卒論指導 第21回：卒論指導 第22回：卒論指導 第23回：卒論指導 第24回：卒論指導 第25回：卒論指導			

- 第26回：卒論指導
- 第27回：卒論報告会に向けた指導
- 第28回：卒論報告会に向けた指導
- 第29回：卒論報告会に向けた指導
- 第30回：卒論報告会に向けた指導

なお、状況により、対象とするフィールドを変更する場合があります。

**【授業方法】**

対面で授業を行います。新型コロナウイルスの状況により、変更する場合があります。  
教科書の輪読ならびにフィールドワークを行います。  
フィールドワークを行うたびに、大学内で活動報告を行います。

**【自学自習のためのアドバイス】**

- (1) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成 (4時間)
- (2) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成 (4時間)
- (3) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成 (4時間)
- (4) 輪読の準備。次回の調査に向けて、地域の情報収集と整理 (6時間)
- (5) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成 (4時間)
- (6) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成 (4時間)
- (7) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成 (4時間)
- (8) 輪読の準備。次回の調査に向けて、地域の情報収集と整理 (6時間)
- (9) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成 (4時間)
- (10) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成 (4時間)
- (11) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成 (4時間)
- (12) 輪読の準備。次回の調査に向けて、地域の情報収集と整理 (6時間)
- (13) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成 (4時間)
- (14) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成 (4時間)
- (15) 輪読の準備。調査結果のレポート作成。次回の報告に向けて資料作成 (4時間)
- (17) 卒論執筆 (4時間以上)
- (18) 卒論執筆 (4時間以上)
- (19) 卒論執筆 (4時間以上)
- (20) 卒論執筆 (4時間以上)
- (21) 卒論執筆 (4時間以上)
- (22) 卒論執筆 (4時間以上)
- (23) 卒論執筆 (4時間以上)
- (24) 卒論執筆 (4時間以上)
- (25) 卒論執筆 (4時間以上)
- (26) 卒論執筆 (4時間以上)
- (27) 卒論報告会用PPT作成とプレゼン練習 (4時間)
- (28) 卒論報告会用PPT作成とプレゼン練習 (4時間)
- (29) 卒論報告会用PPT作成とプレゼン練習 (4時間)
- (30) 卒論報告会用PPT作成とプレゼン練習 (4時間)

\* 卒業論文テーマについては、教員と学生間で相談したうえで決定します。

**教科書・参考書等**

教科書は適宜指示します。  
参考書は随時指定します。

オフィスアワー 金曜日3時限目  
経済学部2号館2F古川研究室

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

卒業論文の作成にあたり、必ずフィールドワークを行います。積極的にフィールドワークに取り組むことができる学生を希望します。  
学生教育研究災害傷害保険に加入していることが条件です。

ナンバリングコード B4ECN-bcaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 314112) 個別演習 (星野) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 星野 良明	関連授業科目	経済数学入門, 経済と数学, ミクロ経済学I, ミクロ経済学II, 上級ミクロ経済学	
	履修推奨科目	経済数学入門, ミクロ経済学I, ミクロ経済学II	
学習時間 授業90分×30回+自学自習 (準備時間60時間+事後学習60時間)			
<b>授業の概要</b> 経済現象や経済問題に対するミクロ経済学的な視点・発想あるいは分析手法を含む卒業論文の作成を目指して, 研究報告と全体討論を行います。前期では春休みの課題レポートに基づいて, テーマ決定のための発表と討論を行うとともに, 論文の書き方に関連するグループワークも行います。前期末までにテーマを絞り込み, 全体構成案と基本文献リストを作成します。夏休みには先行研究の確認のために5000字程度のレポートに取り組み, 9月末(予定)に開くゼミで報告します。後期では各自の研究報告と全員討論を行い, 個別指導を受け, 12月中旬を目途に卒業論文の初稿を完成させます。2月中下旬(予定)にはゼミ3年生も招いて全員で卒論報告会を開きます。			
<b>授業の目的</b> 1. ミクロ経済学の概念と分析手法を習得する。 2. 経済現象や経済問題を経済学的に分析する能力を身につける。 3. コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身につける。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 自ら注目する経済現象や経済問題について, その説明や解決に関わるミクロ経済学の知識と理解を得ることができる。 2. 自ら課題を設定した経済現象や経済問題について, ミクロ経済学の観点から説明または解決することができる。 3. わかりやすい報告資料の作成と発表を行うことができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> ・個別演習: 参加態度, 発表内容, 提出課題を総合評価して認定します。無断欠席は厳禁です。場合によっては単位を認定しません。  ・卒業論文: 字数は原則として2万字以上とします。作成要領の詳細は個別演習の中で説明します。単位認定はテーマに関わる先行研究や理論を踏まえているか, 展開は論理的か, 論文としての形式が整っているかなどの観点から判断します。なお1年間を通した作成プロセスにおいては途中報告を行い, 教員の指導を受けること。指導を受けずに提出された卒業論文は単位を認定しません。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> ・選考基準: 演習(星野)の履修者はその履修状況によります。それ以外の者は演習(星野)の選考基準に従います。  ・授業計画並びに授業及び学習の方法 <b>【授業計画】</b> 1. ガイダンス (第1回) 2. テーマ絞り込みと文献探索の報告・討論, 論文の書き方の学習 (第2回～第13回) 3. テーマ, 全体構成案, 基本文献リストの発表 (第15回) 4. 中間報告会 (9月) 5. 研究報告と全員討論, 個別添削指導 (第16回～第28回) 6. 卒業論文の最終点検 (第29回) 7. 卒業論文要旨の発表と点検 (第30回) 8. 卒論報告会 (2月) <b>【授業及び学習の方法】</b> 個人報告, グループワーク, 全員討論を組み合わせで行います。この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。 <b>【自学自習に関するアドバイス】</b> 1. 不測の事態による卒業延期を避けるために, 卒業論文の作成は計画的に進める。 2. 参考文献の探索は根気強く継続的に行う。 4, 8. パワーポイントのスライドファイルを用意する。 5. 全体構成案に基づいて書けるところから書き進めていく。冬休みまでに一通り仕上げて指導教員から添削指導を受ける。			

教科書・参考書等

【教科書】指定しません。

【参考書】論文の書き方に関するものも含めて適宜紹介します。

オフィスアワー 火曜日4時限目（予定），南キャンパス4号館3階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

卒業論文は通常の講義の定期試験やレポート課題のように「出してそれで終わり」というものではなく，報告と改訂を繰り返して完成，提出に至るものである。

ナンバリングコード B4BSN-bcaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 324140) 個別演習 (松岡) Special Seminar 経営組織のマネジメントの研究	科目区分 専門教育科目	時間割 前期火2	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 松岡 久美	関連授業科目 経営組織論、人的資源管理論A、人的資源管理論B、経営戦略論、調査データ分析 I、調査データ分析 II など		
	履修推奨科目 経営組織論、人的資源管理論A、人的資源管理論B、経営戦略論、調査データ分析 I、調査データ分析 II など		
学習時間 講義90分×30回+自学自習 (準備学習 60時間 + 事後学習 60時間)			
授業の概要 卒論作成のための研究指導を行う。			
授業の目的 卒業論文の作成において必要となる専門分野に関する応用的な知識や研究遂行能力を身につける。また、学生相互にコメントをしあえる環境を作り、ゼミ全体として質の高い研究成果を出せるように取り組む。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 組織理論についての応用的な知識を述べることができる (学士課程のDP「b: 知識・理解」に対応) 2. 自身の研究テーマにかかわる文献レビュー、調査の設計、データの収集、データの分析と考察、論文の執筆を行うことができる (学士課程のDP「c: 問題解決・課題探求能力」に対応) 3. 卒業論文の進捗経過について、レジュメ、パワーポイントなどを用いて、分かりやすくプレゼンテーションすることができる (学士課程のDPの「a: 言語運用能力」に対応) 4. 他者の研究 (4年生卒論, 3年生プロジェクト研究) に対して、建設的な批評や助言を行うことができる (学士課程のDP「a: 言語運用能力」および「b: 知識・理解」に対応)			
成績評価の方法と基準 個別演習: 受講態度 (準備状況および討議への貢献度など)、個別研究の進捗状況により、総合的に評価する。  卒業論文: 下記の要件を満たしている場合に卒論としての提出を許可し、その内容に応じて評価を行う。 ・経営組織のマネジメントに関連した研究テーマが選択されていること ・既存研究を踏まえた上で書かれていること ・独自にデータの収集・分析を行って作成された実証研究であること ・研究論文作成のための様式にのっとって書かれていること (詳細はゼミ時に指示) ・分量の目安は20,000字以上			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【選考基準】 ・演習への取り組み状況および研究計画書により選考する。 ・他演習からの移籍の場合には、研究計画書および面接により選考する。  【授業計画並びに授業及び学習の方法】 卒論の進捗報告と質疑が中心となる。おおよその予定は以下の通り。  (前期) 第1回 インTRODクション 第2回～第14回 進捗報告 第15回 卒論中間報告会 (3年生と合同) (後期) 第16回 進捗経過報告会 (3年生と合同) 第17回～25回 進捗報告 第26回～29回 個別指導 第30回 卒論報告会 (3年生と合同)  受講者は、2～3週に一度程度の頻度で報告を行う。報告担当者は、プレゼン資料を作成した上で人数分コピー・配布し、プレゼンテーションと質疑への応答を行い、今後の研究課題を明確にしていくことが求められる。他の受講生は、報告内容に対して、質問・コメントを行うことが求められる。卒論提出後の報告会は公開の形式で実施する。 *毎回の授業あたり各2時間程度の準備学習と事後学習が必要となる。 *卒論の仕上げ期間中はさらに集中した取り組みが必要となる。  *この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			

教科書・参考書等

特定のテキストは用いないが、各人の卒業論文作成上有益な書籍・論文は、随時紹介する。

オフィスアワー 開講時にアナウンスする。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

無断欠席厳禁

アンケート調査により論文を執筆しようとする者は、調査データ分析 I および調査データ分析 II を履修することを強く推奨する。

ナンバリングコード B4SCL-abcE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 334185) 個別演習 (水野) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期火5	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4SCL	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 水野 康一	関連授業科目 (英語)	異文化間コミュニケーション論, 外国語演習	
	履修推奨科目	観光学概論, グローバル社会概論, 社会調査法	
学習時間 ゼミナール90分 × 30回 + 自主学习			
<b>授業の概要</b> 前年度の演習に引き続き、地域へのインバウンド観光、異文化コミュニケーション問題、グローバル社会における経済、社会問題についての課題を学び、その解決方法について検討する。演習参加者が個々のテーマについてプレゼンし、ゼミでのディスカッションを通じて議論を深め、その成果を卒業論文にまとめる。			
<b>授業の目的</b> 地域へのインバウンド観光、異文化間コミュニケーション問題、グローバル社会における経済、社会問題についての理解を深める。学生は自分なりの解決方法を提案し、行動できる、地域社会にとって有意な人材となることが期待される。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) インバウンド観光振興、グローバル社会における異文化共生についての問題探求能力を身につける。 2) 問題解決のために英語および日本語での自己表現と他者理解のためのコミュニケーション能力を習得する。			
<b>成績評価の方法と基準</b> およそ次のような割合で各項目を総合し、評価する。 ゼミ課題 (授業外学習, プレゼン) 50%, ゼミナール活動 (ディスカッション等) への積極的な参加50%			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> <b>【授業計画】</b> 第1回～第5回 ゼミ生による研究課題発表および討論 第6回～第15回 自主研究課題についての調査発表および討論 第16回～第23回 卒業論文構想発表および討論 第24回～第30回 卒業論文個別指導  <b>【授業および学習の方法】</b> 11月までは、対面でのゼミ形式。12月以降は個別指導 (一人3回～4回) を行う。			
<b>教科書・参考書等</b> 参考書等は随時指示します。			
<b>オフィスアワー</b> 火曜日 4時限目, 金曜日 4時限目			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> <b>【令和3年度個別演習選考基準】</b> 「演習」における達成目標に到達していることを条件とする。 <b>【令和3年度個別演習単位認定方法】</b> 個別演習への出席および参加態度、卒業論文への取り組みにより評価する。 <b>【令和3年度卒業論文の作成要領と単位認定方針】</b> 日本語の場合20,000字以上を最低条件とし、内容とオリジナリティにより評価する。			

ナンバリングコード B4SCL-abcE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード:334190) 個別演習(宮島) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期金4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4SCL	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 宮島 美花	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×30回＋自学自習			
<b>授業の概要</b> 前年度3年次「演習」においては、1年間のゼミ学習の集大成として、全てのゼミ生が、各人の関心に沿ったテーマでレポートを書き、提出して終了した。今年度の個別演習では、前期は、提出されたレポートについて見直しつつ、各自の卒論テーマを改めて設定し、卒論に取り組む。後期は、卒論に向けての発表・報告、それについての議論・意見交換を繰り返し、卒論を完成させていけるよう指導する。			
<b>授業の目的</b> ・日本を含め広くアジアへの関心をゼミ共通の大きなテーマとして知識と関心を育む。 ・地域研究、論理的思考、社会的事象を把握するための社会調査法について理解をする。 ・上記の集大成として各自の設定したテーマの卒論に取り組む、完成させる。 ・報告・発表(プレゼンテーション)、他人の報告を受けて自身の意見を提出するディスカッションの能力を向上させる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
・日本を含め広くアジアへの関心をゼミ共通の大きなテーマとして知識と関心を育む。 ・地域研究、論理的思考、社会的事象を把握するための社会調査法について理解をする。 ・上記の集大成として各自の設定したテーマの卒論に取り組む、完成させる。 ・報告・発表(プレゼンテーション)、他人の報告を受けて自身の意見を提出するディスカッションの能力を向上させる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 個別演習：基本的に対面授業を行う。一部の授業回では遠隔授業を行う。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性がある。 (1) 自身の卒論に関する報告・発表。(2) 他のゼミ生の報告・発表時におけるディスカッションを中心に授業での積極的な参加態度。(3) 卒業論文への取り組み、を総合して勘案する。  卒業論文：(1) 学術論文執筆のマナーやルール(参考文献の提示、引用方法など)を守っているか、(2) 問題意識をもってテーマを決定し、研究目的と結果を明示した論文になっているか、(3) 適切な資料や先行文献にあたって調べているか、また可能な限りの資料や先行文献にあたる努力をしたか、必要に応じて適切な質的・量的調査を行ったか、(4) 構成(順序)づけて論じているか。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
・選考基準 前年度3年次「演習(宮島)」において、1年間のゼミ学習の集大成として、各人の関心に沿ったテーマでレポートを書いて提出し、合格した者。 上記以外の学生については、それと同等の学力があること。  ・授業計画並びに授業及び学習の方法 前年度3年次「演習」においては、1年間のゼミ学習の集大成として、各人の関心に沿ったテーマでレポートを書き、提出した。今年度の個別演習では、前期は、提出されたレポートを踏まえて、各自の卒論テーマに取り組む。輪番で報告担当者を決め、卒論テーマについての報告を行う。  後期は、卒論に向けての発表・報告、それについての議論・意見交換を繰り返し、卒論を完成させていけるよう指導する。特に、引用の形式など、論文執筆マナーについては全員に対して徹底するように指導を行う。			
<b>教科書・参考書等</b> それぞれの卒論テーマや採用する方法論に応じて適宜案内する。			
<b>オフィスアワー</b> 授業時間後に受け付けるほか、宮島研究室(南4号館2階)でも対応するが、会議等で不在にする場合があるので事前に約束をすることが望ましい。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> ゼミ生が相互に学びあい、ともに向上していくことを目指すため、前年度演習に引き続き、自分の報告担当でない時にも積極的な姿勢を要求する。			



ナンバリングコード B4BSN-bcdE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 324148) 個別演習(宮脇) Special Seminar エンパワーメントと管理会計情報	科目区分 専門教育科目	時間割 前期金5	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 宮脇 秀貴	関連授業科目	管理会計および経営学関連の授業科目	
	履修推奨科目	会計学・経営学関連の授業科目	
学習時間	講義90分×30回+自学自習 (準備学習 60時間 + 事後学習 60時間+α)		
<b>授業の概要</b> このゼミの目標は、ゼミナール活動を通して、個人のコンピテンシー（コミュニケーション能力、自己表現能力、論理思考能力および文章作成能力）を高め、様々な「人間力」を成長させることです。社会に出て必要な力、就職活動で求められる力、そして、ゼミの2年間（特に3年生の1年間）で身に付けなければならない力は、全てフラクタル（自己相似）な関係にあり、無関係ではありません。みなさんには、「社会に出て生きていく」ことから逆算した準備が必要であり、そうした意識を持った上で、自分を見つめ、成長していこうとする意志と行動力が求められています。			
<b>授業の目的</b> 社会と大学とゼミナールをフラクタル(自己相似)な関係として捉え、そこから必要とされる知識・技法・マナーを、仲間との相互作用を通して身に付けること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
個人のコンピテンシー（コミュニケーション能力、自己表現能力、論理思考能力および文章・資料作成能力）を高め、様々な「人間力」を磨くことができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 〔個別演習〕 (1)出席（原則：毎回）、参加態度、プレゼンテーションおよび研究活動 (2)卒業論文  〔卒業論文〕（20,000字以上） (1)演習および個別演習の研究活動の成果を反映しているもの (2)学術的な貢献があり、かつクリエイティブでオリジナリティーに溢れるもの			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> 〔選考基準〕 演習の結果（成績がA以上）、基本能力、協調性および面接  〔授業計画ならびに授業および学習の方法〕 ※全回対面授業です。なお状況によっては、全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。 (1)卒業論文作成に向けた資料の収集・分析および報告 (2)就職あるいは進学に必要なコンピテンシーを高める （読解・題名当てクイズ、グループディスカッション(民法・政治のしくみなど)、プレゼン寅さん、各種資格試験の勉強など） (3)3年生の演習指導 ※オプションとして、“Work Shop”では簿記を、“ELP(Effective Listening Practice)”では英語のリスニングを学習することができます。また、“ENJOG”ではウォーキングによる体力作りを行えます。  〔自主学習に関するアドバイス〕 (第1週～第30週) 卒業論文作成に向けた資料の収集・分析および報告の準備・改善（60時間+α） (第1週～第30週) カマタマーレ讃岐との共同プロジェクトの準備・運営（60時間+α）			
<b>教科書・参考書等</b> 随時指定			
<b>オフィスアワー</b> 随時			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> ※自分の足元をしっかりと見つめるとともに、将来を見据え、今できることを着実に積み重ねることが大切です。また、「学生の時にしかできないこと」にいろいろとチャレンジして欲しいと思っています。			

ナンバリングコード B4ECN-bcaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 314124) 個別演習 (持田) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木2	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 持田 めぐみ	関連授業科目	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、上級マクロ経済学	
	履修推奨科目	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、上級マクロ経済学	
学習時間 演習90分 × 30回 + 自学自習 (卒業論文完成に向けての準備作業120時間)			
<b>授業の概要</b> 授業は3、4年生合同のゼミナール形式で行う予定です。 前期は、各自で卒業論文を進めつつ、定期的にゼミ内で進行具合をプレゼンテーション報告してもらいます。また、3年生と一緒に、英語による経済学のテキストを輪読しながら知識を身につけ、理解を深めていきます。適宜、マクロ経済学の復習も行います。 後期は、卒業論文の完成に向けての取り組み、及びその報告がメインとなります。			
<b>授業の目的</b> テキストを輪読し、議論しあうことで現代社会や経済学に対する理解を深めると同時に、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身に付けること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
○ 各自で目的を持って、卒業論文へ取り組み、プレゼンテーションの際には、他者にわかりやすく自分の論文の面白さを伝えることができる。 ○ 人によって意見が分かれる可能性のあるポイントを発見し、複数の視点からの対立する意見・考え方を自ら勘案して、述べることができる。 ○ 現代社会の諸問題について、経済学の知識に基づいた客観的解釈ができ、それをわかりやすく他者に伝えることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 『個別演習』 フィールドワーク、課題レポートを含む授業全般への取り組み態度を見て判断します。  『卒業論文』 報告会の様子も含めて、総合的に判断します。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> 『選考基準』 「演習」の履修状況を見て判断します。  『授業計画並びに授業及び学習の方法』 1. 授業のガイダンス 2～13. テキスト報告、卒論経過報告 14～15. 前期のまとめ 16. 後期のガイダンス 17～26. テキスト報告、卒論経過報告 27～28. 後期のまとめ 29～30. 卒論&テーマ報告会 (※公開)  受講生の状況等に応じて、上記の計画が変化することもあります。  <b>自主学習のアドバイス</b> 1. 春休みの課題にしっかり取り組んでください 2～15. 就職・進路活動と平行して、各自の卒論をしっかり進めておきましょう 16. 特にありません 前期の成績表を忘れずに持ってきてください 17～30. 後期の授業科目と平行して、各自の卒論を早めに仕上げてください			
<b>教科書・参考書等</b> 初回の授業で決定します。			
<b>オフィスアワー</b> 初回の授業でお知らせします。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> みんなで卒業できるようにがんばりましょう！			

ナンバリングコード B4ECN-bceE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード:314108) 個別演習(姚) Special Seminar 日中経済の実証分析	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月5	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 姚 峰	関連授業科目	統計学入門	
	履修推奨科目	アジア経済論	
学習時間 講義90分×30回+自学自習(準備学習15時間+事後学習30時間)			
<b>授業の概要</b> 個別演習の前半では、日中経済に関する卒業論文を作成する目的でゼミ生の研究発表を指導し、必要に応じてデータの収集・整理・加工などの基礎知識と統計処理手法を補講する。後半では研究論文作成にあたり添削指導を行う。海外研修を実施する予定。研修先は上海・西安・アモイ・香港・台北から選定する。			
<b>授業の目的</b> 経済活動が加速的にグローバル化している中、日中経済発展の現状と国際貿易交流などを正確に再認識する。豊富な地域経済知識を身に付け、国際的に活躍できる人材になる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. アジア経済と社会情勢を客観的に正しく認識することができる。 2. 国際的な経済活動のなかで適切な行動をとることができる。 3. 統計分析手法を用いてアジア経済問題を解析できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 研究討論の参加状況(30%)とレポート(50%)及び出席(20%)による総合判定。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> 選考基準：日中経済の実証分析に興味がある；積極性と協調性があり、無断欠席しないこと。			
<b>授業形態</b> ：対面により実施することを基本とする。状況によって数回Zoomによるオンライン式(適時周知する)。 <b>授業計画並びに学習方法</b> ： <p>第1回 ガイダンス  第2回 論文作成執筆指導  第3～5回 研究計画・進行状況報告  第6～15回 研究発表・討論  第16～17回 研究報告・卒論テーマの確定  第18～19回 途中結果報告  第20～27回 研究発表・討論  第28～29回 卒論研究発表  第30回 まとめ</p> <b>学習方法</b> ： <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実証分析に必要な知識を勉強する。</li> <li>2. 関心度の高い日中経済に関する研究題目を選定する。</li> <li>3. 研究資料の収集・整理に努力し、積極的に研究発表を行う。</li> <li>4. 研究発表はPPTなどを用いてプレゼンテーションを行う。</li> <li>5. 研究発表の結果を生かし、卒論テーマ選定する。</li> </ol>			
<b>教科書・参考書等</b> ゼミ生と相談するうえ決定する。			
<b>オフィスアワー</b> 火曜日4校時、幸町南7号館3階、姚研究室。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 個別演習単位認定方法：出席状況、研究討論とレポートによる総合判定。 卒業論文の作成要領と単位認定方針： 卒業論文はワープロによるものとし、図表を含めて2万字以上とする。 出席状況と研究討論の態度などを中心に、卒業論文の完成度を参考するうえ、総合的に判断する。卒業論文の詳しい作成要領などについては卒業論文指導時に説明する。			

ナンバリングコード B4BSN-abcE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 324133) 個別演習 (安井) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月5	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 安井 敏晃	関連授業科目	リスクと保険, 保険システム論等	
	履修推奨科目	リスクと保険, 保険システム論	
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備時間60時間+事後学習60時間)			
<b>授業の概要</b> 個別演習においては、卒業論文の作成が中心となる。毎回、担当者に卒業論文の中間報告をしてもらう。さらに担当者の報告に対して全員で討論を行う。			
<b>授業の目的</b> 卒業論文に必要となる専門分野に関する応用的な知識や文章作成能力を身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
卒業論文に関わるレジメないしレポートを書くことができる。 卒業論文に関わるプレゼンテーションができる。 卒業論文に関わる討論ができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別演習 報告, 授業への参加状況, レポート, 卒業論文を総合して評価する。</li> <li>・卒業論文 卒業論文は20,000字以上とする。詳細については、個別演習において説明する。 論理展開, 説得力, 独創性などの観点から総合的に評価する。</li> </ul>			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業形態 基本的に対面型式で行う。状況が変化した場合には別途指示する。</li> <li>・選考基準 演習における研究活動を考慮して、研究意欲の高い学生を受け入れる。 報告, 授業への参加状況, レポートを総合して評価する。</li> <li>・授業計画並びに授業及び学習の方法 第1回 卒業論文作成に向けたガイダンス 第2回～第14回 卒業論文の中間報告 第15回 演習内卒論報告会</li> <li>・自学自習について 毎回、何らかの課題があるので、熱心に取り組むこと,</li> </ul>			
<b>教科書・参考書等</b> 最初の講義時に指示する。 適宜, 指示する。			
<b>オフィスアワー</b> 時間: 演習開講日の3時限とする。ただし、参加できない演習生がいる場合には、全員参加できる日時に変更する。 <b>場所:</b> 安井研究室			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 卒業論文は20,000字以上とする。詳細については、個別演習において説明する。  論理展開, 説得力, 独創性などの観点から総合的に評価する。			

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 334197) 個別演習 (山崎) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木2	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 山崎 隆之	関連授業科目	観光産業論、マーケティング論A・B、地域活性化論、まちづくり論	
	履修推奨科目	地域調査法、観光学概論、観光政策論	
学習時間 講義90分×30回+自学自習 (準備学習 60時間 + 事後学習 60時間)			
<b>授業の概要</b> 観光は、旅行者の心理・行動や観光対象となる地域資源を起点に語られることが多いが、現地を体験せずに訪問を決定せざるをえない観光では、様々な媒体により意識的・無意識的に提供される情報が、旅行意欲の喚起、目的地の決定、体験の満足などにとって重要な要素となっている。 本ゼミでは、地域資源の魅力や特徴を表現することで消費者の心理・行動を観光へと向かわせる様々な媒体の存在に着目する。各自が研究テーマとする媒体を設定し、それぞれの媒体の観光における役割、効果、課題などを分析した上で、旅行者と地域の双方にとって有効な観光媒体のあり方(手法)について検討する。 個別演習では、3年次の演習で取り組んだ各自の研究テーマから発展した調査・分析をすすめ、卒業論文としてまとめる。			
<b>授業の目的</b> 広い視点で旅行者・観光媒体・観光対象からなる観光現象を理解する【b】と同時に、自律的に課題を設定し、調査・分析・考察・実践を行える【c】ようになることを目指す。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 観光に関する様々な要素の関係性を図示できる。 2. 観光現象の特徴や傾向を詳細に説明できる。 3. 観光振興に資する具体的な手法を提案できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> <b>【個別演習】</b> ①各自の調査・分析への取り組み姿勢(50%)と②調査・分析の成果(50%)の総合評価とする。  <b>【卒業論文】</b> 自らが設定したテーマに基づく調査や分析・考察の結果を20,000字程度にまとめる。文字数は目安であり、課題設定の独創性・新規性、内容の充実度、主張や結論の妥当性を重視する。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> 自分の研究テーマ・対象を定め、調査・分析・考察を行い、結果を卒業論文としてまとめるとともに、得られた結果を踏まえた具体的なアウトプットを制作することが望ましい。 基本的に授業時間は報告・議論の場とし、各自が自律的に授業時間外で作業をすすめることを求める。			
<b>●授業計画</b> 前期～後期：各自のテーマに基づく資料収集・フィールドワーク、分析・考察、アウトプットの検討・制作など ※適宜、個別演習履修生全体での中間報告・議論の場を設ける。			
<b>【「調査テーマ⇒アウトプット」のイメージ】</b> ・文化庁「日本遺産」認定ストーリーの観光活用の実態⇒高松市の歴史・文化ストーリーの作成と活用方法の提案 ・観光関連ロコサイトの記載内容の特徴分類⇒ロコミナー啓発パンフレットの制作 ・個人の旅行記からみる観光体験の変遷と現代観光の特徴⇒自分の旅行記ホームページの制作 ※上記はあくまで例であり、学生からのユニークなテーマへの取り組みを歓迎する			
<b>●選考基準</b> 演習への取り組み状況ならびに研究テーマにより判断する。			
<b>【このゼミに向いている人】</b> (情報の)整理整頓が好きの人、数に敏感な人、語彙が豊富な人、発想が豊かな人、個性的な人、手を動かして考える人、「いつの間にか学んでいる」経験がある人 ※上記は担当教員の特徴(教員と共通点があることが学修の進展に有効であると見込まれるため)			
※この科目は全回対面授業を行う予定ですが、状況によって全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			

教科書・参考書等

教科書・参考書：特になし。適宜授業内で指示。

オフィスアワー 授業終了後に対応する。

山崎研究室（南3号館3階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・授業計画は進捗状況により、変更になる場合がある。変更については授業内で適宜連絡する。
- ・授業に参加する意思がない態度や、授業の進行の妨げになる行動をとる学生については退室を指示し、態度が改められない場合は単位の取得を認めない。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 314106) 個別演習 (ラナデ) Special Seminar 数理経済学及び応用ミクロ分析 (Mathematical Economics & Applied Microeconomic Analysis)	科目区分 専門教育科目	時間割 前期火5	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 E	単位数 4	
担当教員名 ラナデ	関連授業科目	経済学の全て	
	履修推奨科目 履修は望ましい	経済数学、経済数学基礎、ミクロ、マクロなど	
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> この授業で学生の卒業論文の指導します。卒業論文のテーマは学生が自分で決めますが毎回そのテーマについて5000字の文章を作って発表しなければなりません。できない人に個別演習の単位は出ません。論文は必修ですのでしっかりがんばったら単位は当然です。			
<b>授業の目的</b> 経済学を論理的・数学的に考える。特に応用を学ぶ。卒業論文の作成をする。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 周りの経済・社会のミクロlevelの問題を論理的に考えることができる。 2. その問題の応用分析ができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 講義中の討論の内容によって評価する。まじめに出席して討論に積極的に参加した学生を評価します。なお、個別演習の評価は出席と発表回数で決めますが、卒業論文は内容の深さ及びOriginalityを見て決めます。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>選考基準：</b> 希望者が定員を超えない場合は簡単に受けますが、超えた場合には成績によって選考します。			
<b>授業方法：</b> 板書と討論が授業の中心です。			
<b>前期と後期の授業計画：</b> 第1回～30回：学生の希望によってテーマを選び、討論します。			
<b>自学実習：</b> Homeworkはしなければなりません。			
<b>教科書・参考書等</b> とくに決まっていますが、講義中いくつかのテキストの紹介があります。 とくに決まっていますが、講義中いくつかの本の紹介があります。			
<b>オフィスアワー</b> 基本的にいつでもOKですが-18時に研究室にいる可能性が高い。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 出席はvery very importantです。			

ナンバリングコード B4BSN-cebE-20-Ef4 授業科目名 (時間割コード: 324165) 個別演習 (渡邊) Special Seminar 個別演習 (渡邊)	科目区分 専門教育科目	時間割 前期火4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cebE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ef	単位数 4	
担当教員名 渡邊 孝一郎	関連授業科目	流通システム論A, B	
	履修推奨科目	経営学関連科目	
学習時間 ゼミ90分×30回+自学自習 (準備学習60時間+事後学習60時間)			
<b>授業の概要</b> 卒業論文作成のための研究指導を行う。 履修者は毎回、研究の成果を発表し、さまざまな議論を通じて論文の質を高める。			
<b>授業の目的</b> 卒業論文作成に必要なとなる専門分野に関する応用的な知識や文章作成能力を身に着ける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・流通論を通して、地域商業の事例を理解、分析、課題解決ができる。</li> <li>・地域商業によるまちづくり活動に関する卒業論文を作成できる。</li> <li>・ある課題に対して論理的思考のもと、研究できる。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> <b>【個別演習】</b> 研究の進捗状況、出席状況、討議への参加などにより総合的に判断する。  <b>【卒業論文】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・流通論に関連した研究テーマが選択されていること</li> <li>・先行研究をふまえたうえで書かれていること</li> <li>・所定の書式に従って作成されていること (書式については別途指示をおこなう)</li> <li>・研究倫理に十分な配慮・対応をしていること</li> <li>・分量は20,000字以上であること</li> </ul>			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b> <b>【選考基準】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習の取り組み状況、研究計画書により選考する。</li> </ul> <b>【授業計画並びに授業及び学習の方法】</b> 第1回：イントロダクション 第2～29回：卒業論文の進捗状況報告と質疑 第30回：卒業論文報告会  この科目は基本的に対面授業を行う。なお状況によっては授業形態を一部遠隔へ変更する可能性がある。  演習生は、自身で研究の進捗状況を把握し、計画的に論文の執筆を行うことが求められる。 演習生は、2週に1回程度報告を行うことが求められる。 報告者は、研究の進捗状況などを示すレジュメを作成した上で、人数分コピー・配布し、プレゼンテーションを行うことが求められる。 報告を行わない者は、報告者に対し建設的な批判や助言をおこなうことが求められる。  <b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 各回ごとに出される課題に対して適宜、各自事前学習、事後学習として卒論執筆に一週間に少なくとも8時間を使用すること。			
<b>教科書・参考書等</b> 必要に応じて、資料を配布する。			
<b>オフィスアワー</b> 特に定めない。事前にe-mailでアポイントをとること。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 無断欠席厳禁 報告・連絡・相談を行うこと。			